

学報

NARA MEDICAL UNIVERSITY

vol. **73** 2020
August

Special Feature

理事長・学長からの
メッセージ vol.16

新型コロナウイルス感染症対策について



Contents

特集

理事長・学長からのメッセージ vol.16	3
新型コロナウイルス感染症対策について	4
新型コロナウイルスへのMBTの挑戦	7
春の叙勲受章(吉岡前理事長・学長)	8
退任の挨拶	8
研究紹介	9
令和元年度 公立大学法人奈良県立医科大学決算	10
MBT研究所だより(第17報)	11
図書館だより	12
未来への飛躍基金だより	13
学生の共著論文が国際的ジャーナルに掲載されました!	14
看護部の紹介	16
医療職事務支援室の紹介	17
研究力向上支援センター スタート!!	18

Campus News

ルール大学(ドイツ)から実習生が来学しました	19
陽子線がん治療研究センター活動状況報告会の開催	19
MBTコンソーシアム参加企業様からオゾン消毒器をいただきました	19
MBTで、新型コロナ対策を迅速に!	20
感染症外来ユニットや新型コロナウイルス対策を強力に推進します	20
医学科同窓会から学生に貸与するためのパソコン購入費用をご寄附いただきました	20
遠隔授業支援金の給付について	20
公的研究費の適正使用に係る研修会を開催しました	20
病理遺伝子解析ユニットについて	21
横断的共同研究助成事業及び若手研究者研究助成事業が採択されました	21
V-iCliniX 講座運営委員会を開催しました	22
大学院看護学研究科のオープンキャンパス2020をWeb開催しました	22
オンラインで英語の繋がりを!	22
MBTセミナーを開催しました	23
MBT コロナ対策企業相談を開始	23
学内向け広報グッズ貸出について	23

Winner Report

国際ソロプチミスト奈良—あすか大学院女子学生奨学金クラブ賞を受賞しました	24
令和2年度日本白内障学会学術賞を受賞しました	24
第85回日本病理学会近畿支部学術集会で人体病理学学術奨励賞を受賞しました	24
第24回日本医療情報学会春季学術大会で研究奨励賞を受賞しました	24
2020年度日本神経生理検査研究会会長賞を受賞いたしました	25
令和2年度 文部科学省科学研究費助成事業の決定	25
喜びの声	29

寄附者ご芳名

Information

「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございます	31
大学院入試日程	31
メディア掲載情報/編集後記	32

本学の基本方針 (令和2年4月22日制定)

「本学は、将来にわたって「主たる大学」として発展することを基本方針とする。役員会等は基本方針に基づいて、種々の施策を決定し、実行する。」

全国で計画段階にあった大学の再編がいよいよ実行段階に入ってきました。いつこの波が奈良医大に押し寄せてくるか予断を許しません。他大学の「従たる大学」ではなく、自身で決定権を持つ「主たる大学」を目指すことを明確にするために、上記の基本方針を制定しました。存在感を持った主たる大学として存続するためには、日本を代表する特別な医科大学になる必要があります。そのために、世界に類例がないMBT構想をはじめ、未来への飛躍基金、海外リサーチクラークシップなど種々の施策を実行継続中です。

朗報！奈良医大の学生の共著論文がCell誌等に掲載されました

奈良医大が将来にわたって日本を代表する特別な医科大学として、持続的に発展していくためには、現在学生である方々がその能力を発揮し、世界に貢献していく必要があります。この意味から、奈良医大の学生の論文が共著者として世界的な医学誌に掲載されたことは、極めて意義深いものと考えております。今後、奈良医大の学生が独自の発想やアイデアを基にオリジナリティ溢れる研究にさらに取り組み、ファーストオーサーとしてこのような世界的な論文誌に掲載されることを期待しています。

なお、ミシガン大学医学部と奈良医大は包括連携協定を結んでおり、聴覚の共同研究など種々の共同プロジェクトが始まっています。また、奈良医大大学院には「奈良医大－ミシガン大学連携コース」を設置しており、世界的に極めてレベルの高いミシガン大学で学ぶことが可能です。

未来への飛躍基金

海外・国内のリサーチクラークシップは、「未来への飛躍」基金からの支援によって行われています。この基金は、教職員や同窓会のみなさんをはじめとして、多くの方のご協力によって成り立っているものです。皆様方に感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬお力添えを賜りますようよろしくお願い申し上げます。

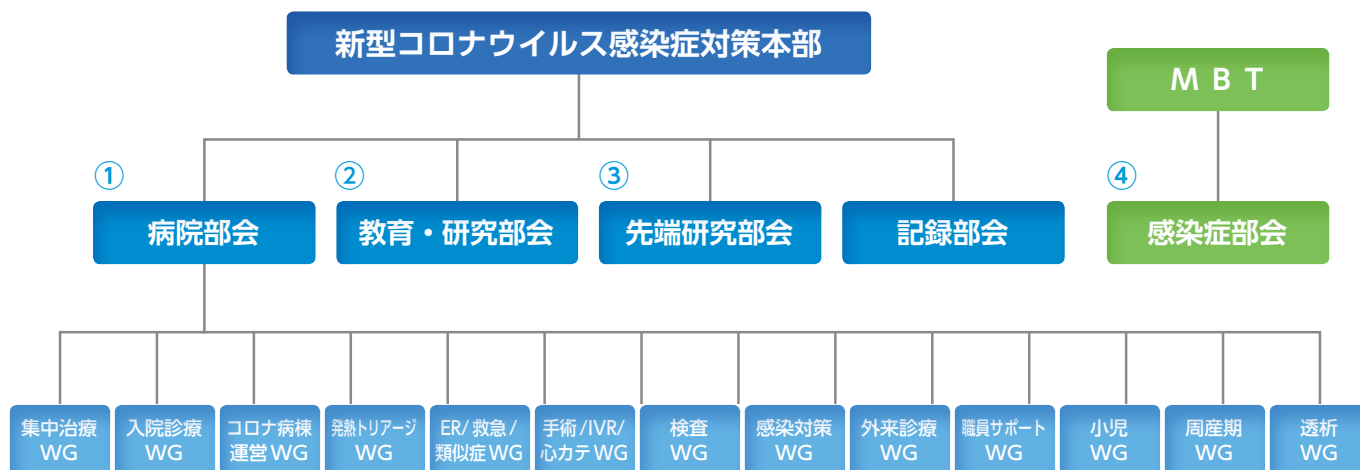
新型コロナウイルス感染症対策

4月1日に対策本部を設置して以降、すべての情報を対策本部に集め、コロナ対策本部ニュースとして情報発信して参りました。この間、多くの教職員のみなさんの協力のおかげで、4つの部会はそれぞれの役割りを見事に果たしていただきました。NHKと共同で記録してきた奈良医大のコロナとの戦いが、7月26日「NHKスペシャル」と7月28日「プロフェッショナル仕事の流儀」で放送されました。新型コロナウイルス感染症が再び勢いを増す兆しを見せており、気が抜けない状態が続きますが、一致団結して乗り切りたいと思います。何卒よろしくお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症対策について

新型コロナウイルス感染症対策のため、ご理解とご協力をいただきお礼申し上げます。新型コロナウイルス感染症対策に本学が一致団結し取り組むために設置した「新型コロナウイルス感染症対策本部」の各部会での活動の一部を紹介します。

理事長・学長 細井裕司



①病院部会の取り組み

「病院部会」では、4月2日に第1回目の病院部会が病院部会長である吉川病院長の招集により開催されました。

第1回病院部会においては、国内及び県内の感染状況、当院における患者受入のための検討事項などが話し合われ、また病院部会を当面の間、定例会議として毎週開催することが決まりました。

その後は、病院部会の下部組織として、感染対策WG、集中治療WGなど合計12（現在13WG）のWGを立ち上げ、各WGにおいて新型コロナウイルス感染症対応のためのそれぞれの部門の課題を検討しました。病院部会ではその報告を受けて検討を進め、最終的に対策本部会議での審議承認を経て、新型コロナウイルス感染症への対応を迅速に決定していきました。

特に、病院玄関における発熱患者等のチェックとトリアージ

外来の設置、新型コロナウイルスの感染症患者や疑似症患者の診療にかかる内科系、外科系診療科による応援態勢の構築、その他病棟の陰圧化などの環境整備等の病院全体の課題について、病院長の強いリーダーシップの下、感染症センターと感染管理室を中心に医師、看護師、医療技術職員、事務職員が連携、協力して取り組んでまいりました。

また、奈良県からの新型コロナウイルス感染症対応病床の150床確保要請に対しては、各診療科が一致団結して、入院、退院調整を行い、約1ヶ月間という短期間で要請病床数を確保することができました。今後についても、感染小児期における一般診療の段階的な再開、第2波、第3波の発生の可能性を考慮に入れた診療体制の構築等を病院部会を中心に検討し、病院一丸となって進めていく予定であります。



トリアージ外来



トリアージ外来 陰圧テント



病院玄関における発熱患者等のチェック

②教育・研究部会の取り組み

当部会は嶋医学部長を部会長とし、新型コロナウイルス感染症による教育及び研究分野の課題を審議する部会です。

まず、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、4月以降の授業形態について、当面の間、学生の来学を禁止することとし、対面での授業（来学しての授業）は実施せず、各教育部長と協議しながら、本学としては初めて、すべての授業を遠隔で実施することとしました。

同時に、各学生が自宅において授業の継続が可能かどうかを把握するために、オンライン環境調査を行い、その結果を踏まえ、通信量に配慮した遠隔授業方法及び遠隔授業マニュアルの整備などを審議しました。

また、遠隔授業の実施に伴い、Wi-Fi環境及び通信機器等の学習環境整備費用や課題資料の印刷費用など、学生の経済的負担増が発生したため、少しでもその負担を軽減することを目的に、「未来への飛躍」基金を活用し、学生一人当たり2万円の「遠隔授業支援特別奨学金」を給付することを決定するとともに、授業中にパソコンなどを専有できない学生向けには、医学科同窓会からいただいた寄附金や県からの臨時交付金などにより、貸与用パソコンを合計60台確保することを決定しました。

加えて、来学禁止に伴い、図書館の利用ができなくなるため、希望する学生に図書や論文のコピーなどを無償で宅配することを決定するなど、学習のサポートを行いました。

その他学生生活への支援として、1年生に対して、学生支援委員会の委員が中心となり、遠隔でミーティングを行うなど、学生の不安解消にも努める取組を進めました。

なお、研究分野については、動物実験施設における研究と入館時の対応について報告しました。

5月下旬には、県の方針等を踏まえ、対面授業の再開について審議し、三密の回避のために使用できる諸室が限られる中で、6月1日から週ごとに来学する学年を指定する「分散型」で対面授業を再開することを決定しました。なお、対面授業再開以降も、臨床実習内容の拡充など、適宜、感染状況も考慮した教育形態の見直しを検討しています。



会議の様子

③先端研究部会の取り組み

新型コロナウイルス感染症対策本部の中でも、診療面から対応するのみならず、研究面で、存在感のある主たる大学を目指して、新型コロナウイルスへの挑戦を世界に向けて提言・発信するための「先端研究部会」を設置しました。部会では、MBTコンソーシアム感染症部会と連携しながら、新型コロナウイルスに関する研究促進のための議論や、マスコミ等にも発表された先端研究成果の進捗報告など果敢に取り組んでいます。

これまでの主な成果としては、まず、新型コロナウイルス感染者と外来患者とを切り離した診療検査を可能とするプレハブ型の「MBT感染症外来ユニット」の実用化に向けた全国

自治体や病院への提案発信などが挙げられます。

さらに、5月15日には、奈良県立医科大学とMBTコンソーシアムの研究グループによる、世界初となる「オゾンによる新型コロナウイルス不活化」の成果についての記者会見が行われ、テレビ局や新聞9社が参加し、活発な質疑応答も行なわれました。

各研究報道に関する問合せや研究依頼等も多数来ており、今後も世界に先駆けた前衛的な新型コロナウイルス対策研究への取組みや、世界に向けた成果情報発信への取組みが期待されます。



会議の様子



記者発表の様子

新型コロナウイルス感染症対策について

④ MBT コンソーシアム感染症部会の取り組み

新型コロナウイルスは、全世界に感染が拡大し、薬もワクチンも無いなかで医療現場や経済活動に大混乱をきたしており、かつて経験したこともない人類の最大の脅威となっております。

本学では、対策本部に先端研究部会を立ち上げ、MBT コンソーシアムの感染症部会と協働して研究促進のための取り組みを進めています。

MBT コンソーシアム感染症部会では MBT 連携企業とともに、医療現場や生活の場での感染を予防するための開発を行っています。

主な取り組みとしては、自宅療養するウイルス陽性で軽症患者のバイタルデータをもとに MBTLink で自動的に症状変化を見守る技術開発や、スマホカメラの撮影画像を用いたバイタルスクリーニングを進めています。

国民を新型コロナウイルスから守るべく、MBT コンソー

シアム感染症部会では、企業とともに世界に先駆けた研究に取り組めます。



研究者の熱心な議論

新型コロナウイルス感染症対策にかかるご寄附へのお礼

新型コロナウイルス感染症への対策として、貴重なご寄附をいただき、厚くお礼申し上げます。

いただきましたご寄附につきましては、本学学生の修学支援及び附属病院での医療に有効に活用させていただきます。また、みなさまのご支援は本学学生及び教職員の志気の高揚にもつながっております。

みなさまのお心に応えるべく、今後とも、教職員一同、良き医療人を育成する場、県民を守る最終ディフェンスラインとして安全で安心できる最善の医療を提供する場として、感染防止対策に努めながら、本学の責務を果たすべく取り組んで参ります。

◇受け入れ状況（令和2年7月28日現在）

※他のページ記載分を除く

- ・ サージカルマスク
- ・ フェイスシールド
- ・ 消毒液
- ・ 手袋
- ・ くず餅、サプリメント
- ・ 寄附金 等
- ・ N95 マスク
- ・ ゴーグル
- ・ 合羽・シューズカバー
- ・ 防護服
- ・ ハンドクリーム



新型コロナウイルスへのMBTの挑戦

本学は、MBT コンソーシアム及び会員企業とともに、新技術によって一刻も早く新型コロナウイルス感染症を終息させることをめざして、さまざまな研究開発を行い、有用な研究成果を挙げることができましたのでご紹介します。

世界初！オゾンによる新型コロナウイルス不活化を確認

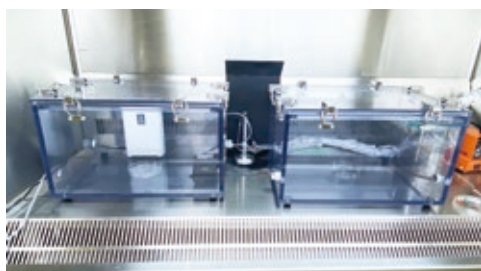
微生物感染症学 矢野寿一教授と感染症センター 笠原敬センター長が、MBT コンソーシアム参加企業であるクオールホールディングス株式会社、三友商事株式会社、株式会社タムラテコ及び丸三製薬バイオテック株式会社と共同で、オゾンガスによる新型コロナウイルスの不活化研究を行い、このたび、不活化の確認およびその条件を明らかにし、5月14日に発表、翌15日に記者会見を行いました。

取り組み内容と成果

確認実験は、気密ボックス内に塗布した新型コロナウイルスに、濃度6 ppmのオゾンガスを約1時間曝露して行ったもので（下写真）、その結果、ウイルス量が1/1000～1/10000まで不活化していることを世界で初めて確認しました。



実験の様子



不活化実験装置

本発表に対し、さまざまなテレビ番組、新聞、Webで報道され、海外からの問い合わせや、企業との共同研究の話も多く今後新たな発展になりそうです。

また、今後この研究の成果に関して論文発表等を行って参ります。

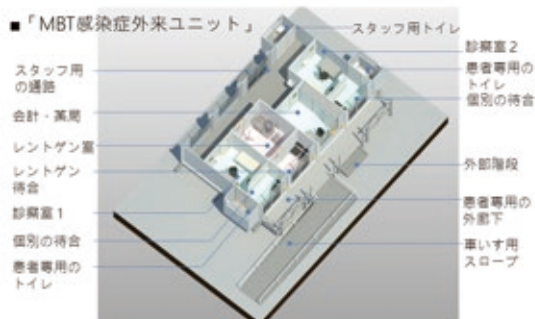
「MBT 感染症外来ユニット」を開発

感染症センター 笠原敬センター長が、MBT コンソーシアム参加企業である大和ハウス工業株式会社、大和リース株式会社及び株式会社内藤建築事務所と共同で、新型コロナウイルス感染症の診療体制を確保するためのプレハブ型発熱外来施設を開発しました。

これは、2009年に新型インフルエンザが流行したときに、奈良医大がハウスメーカーと共同開発していた技術を発展させて改めて開発したもので、MBT 感染外来ユニットと命名しました。もととなった技術は、2009年に県立病院で利用された後は、なかなか活躍の場がなかったのですが、今回、脚光を浴びることができました。

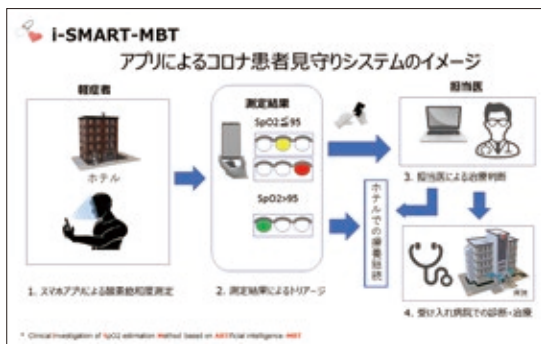
MBT 感染外来ユニットは、プレハブ建築ですので、既存病院の駐車場や空き地に短時間で建てることができます。

新型コロナウイルス感染症の疑い患者の動線と、医療スタッフの動線を分離して、接触する箇所を最小限とした設計が大きな特徴です。

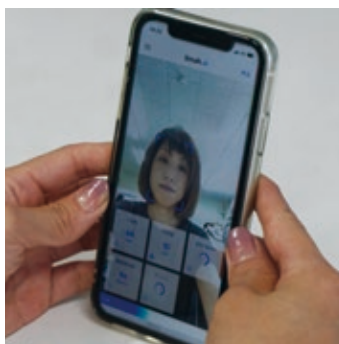


“スマホアプリでコロナ感染症患者の見守りを目指した”i-SMART - MBT 臨床試験をスタート

呼吸器内科学、感染症センター及び臨床研究センターとMBT コンソーシアム参加企業である近鉄ケーブルネットワーク株式会社と共同で、新型コロナウイルス感染症の第2波感染拡大に備え、ホテルで療養する無症状、軽症状患者の見守りシステムを目指すi-SMART-MBT 臨床試験を開始しました。



見守り体制イメージ



計測イメージ

新型コロナウイルス感染患者の臨床においては、血中の酸素飽和度 (SpO₂) 測定が病勢進行判断の目安として用いられ、医療現場では、指先にクリップ状プローブを装着するパルスオキシメータが使われます。

i-SMART-MBTは感染拡大時の医療者への感染防止や測定データ通信の容易性から、個々人が保有するスマホを用いて簡便にSpO₂を測定し、医療者による治療判断の参考として活用することを目指しています。

春の叙勲受章（吉岡前理事長・学長）



前理事長・学長 吉岡 章

この度、瑞宝中綬章を賜りました。関係者の皆さまの長年にわたる温かいご支援とご協力に厚く御礼申し上げます。

思えば、奈良医大を卒業して50年。良き師の薫陶を受け、先輩、同輩、後輩に恵まれて患者さんのため、小児科のため、奈良医大のために尽くせたことが私の喜びであり、誇りであります。

入学式欠席者の補充として入学し、在学中には多くの紛争、学生ストライキがありました。医大6年生の夏に、重症消化不良症から辛うじて生還した私の1歳時（1945年）の入院カルテ（奈良医専附属病院）が見つけ出され、躊躇なく小児科に入局しました。勤められるままに血液凝固学を専門にし、血友病を中心に多くの診療と研究に携わりました。止血困難な大出血例や難しい手術などを数多く経験しました。一方で、患者さんの約3割がHIVに感染し、その診断・治療と対応にも力を尽しました。留学（西独と英国）では新しい知見・技術と親しい友人を得ることが出来ました。そして、1993年教授に、その後、病院長、理事、理事長・学長（2008年）に選出されました。「夢、喜び、やりがい」の3Yをモットーに奈良医大をトップ10に引き上げるべく数々の施策を行い、累積赤字の単年度黒字化を果たしました。入試改革で高い偏差値の学生を獲得し、地域医療コースと研究医コースを設置し、医大病院の研修医マッチング率100%を達成しました。大学院看護学研究科に修士課程を設置し、また、女性研究者・医師支援センターの設立となかよし保育園の大幅な拡充で女性教職員のキャリアの向上と働きやすい職場の提供に努めました。

専門領域では、県下の小児救急と周産期診療ネットワーク体制の確立と実施を果たしつつ、多くの小児科医育成（入局年平均6名）に努めました。また、血友病止血剤2剤の創薬に直接貢献できたことも幸いでした。この間、第112回日本小児科学会総会（奈良市）をはじめ多くの学術集会長と第23回国際血栓止血学会（京都市）副会頭を務めました。

今日、本学は細井理事長・学長の下、県民の支援と支持を得て益々発展しています。まもなく新キャンパスへの移転も実現します。その威容を仰ぎ見ることが出来る日を心待ちにしています。

退任の挨拶



放射線医学 前教授 吉川 公彦

令和2年6月末をもちまして院長職と兼任しておりました奈良県立医科大学放射線医学教室の教授を退任することになりました。教授在職中は多くの先生方に大変お世話になりありがとうございました。1974年に本学入学、1980年に卒業、1年間の関連病院での勤務、2年間での海外留学を含め46年間に亘って奈良県立医科大学でお世話になりました。

2001年故打田日出夫名誉教授の後任として放射線医学教室教授就任後、19年間「診断から治療まで」をモットーに、教室が一丸となり各科の先生から信頼される高い臨床能力とstudy mindを有する放射線科医の育成を目指すとともに、IVR外来・病棟を有し、他科と連携してハイレベルの日常診療にあたってきました。2014年に循環器内科、脳神経外科のご協力により、高度なIVRをより効率的に行うことを目的にIVRセンターが設立され、施行件数は年間約2000例で日本でも屈指の症例数を誇っています。2016年には総合画像診断センターが設立され、各種モダリティを有効に組み合わせたエキスパートによる精度の高い総合画像診断を通じて、臨床各科の先生方のお役に立てるよう日々努力してまいりました。研究面では2016年IVR研究センターが設立され、全国・世界に向けて画像診断とIVRに関する情報の発信に邁進して参りました。今まで教室を支えていただきました医局員、秘書、各教室の先生方、メディカルスタッフ、事務の方、関連病院、同門会、同窓会の皆様から心からお礼を申し上げます。

今後は2020年4月より拝命しました奈良県立医科大学附属病院長として、大学と密に連携して附属病院の運営を行うとともに、本学が今後も益々発展し、主たる大学として存続できるよう努力致します。皆様方におかれましては、より一層のご支援・ご指導を賜りますよう、何卒、宜しく願い申し上げます。

児童精神医学への挑戦



人間発達学 飯田 順三

大学生時代に自閉症児と遊ぶサークル活動をしていて、自閉症児の行動に非常に魅せられたのと同時に親御さんの苦労が並大抵でないことも知った。その頃、自閉症児が絶飲絶食状態になり自宅で死亡したという事件があり、親が子どもを見殺しにしたと責められた事件があった。私はその親御さんの計り知れない苦労を思い、一方的に責める風潮にあまり同調できなかった。そして精神科の講義で私の恩師である井川玄朗教授が物事を一方的に、短絡的にみずに家族の苦悩も理解しなければいけない。精神医学は本人だけでなく、本人を取り巻く家族、社会などの環境もみていくことが必要であると話されていて、精神科に入局することを決めた。

入局後、教授に児童精神医学をしたいことをお願いすると「ぜひ、してください。これから大事な分野になると思う。ただ教えられる人は誰もいないので自分で頑張ってください。」と言われた。当時、奈良県下に児童精神科医は誰もいなかったのである。独学で児童精神医学関係の書物を読み漁り、著者に連絡して教えを乞うこともあった。医師になって7年目に漸く児童思春期外来を独りで開設して数年経過した。一人では診療も研究も心もとなく、仲間を作らなくてはと思い、入局4年目の岩坂英巳先生（現信貴山病院ハートランドしぎさん子どもと大人の発達センター長）と平尾文雄先生（現上野病院院長）を誘い、3人の児童思春期班が結成され、その後この2人の先輩のおかげで順調に仲間が増え、今では30名以上のグループになっている。

そこで私が研究において重要視したのは臨床における疑問から根ざした研究であるべきで、そのためには日頃から丁寧な臨床を行い、常にその症例に興味を持つべきであると考えた。これまで主に3つの研究を行っている。1つ目は知的発達症の研究である。養護学校の嘱託医をしていて、夜尿、偏食、夜驚、多動などさまざまな問題行動について相談を受けるが、それが発達途上の一過性のもので発達とともに減少するのか、疾患と捉えて治療が必要なものかさえ誰にもわからなかった。そこで重度の認知の発達レベルがわかる太田のステージとの関係を調べると、明らかに発達レベルが上がると消失する問題行動があることがわかった。異食、夜尿、遺尿、常同行動は発達とともに減少し、強迫行動は発達とともに増加した。重度の知的発達症でも問題行動にのみ着目するのではなく、発達全体を上げる

取り組みが重要であることがわかり、発達レベルに即して保護者にアドバイスできるようになった。

2つ目に児童思春期発症統合失調症の研究である。不登校などを契機に強迫症状を呈し、その後統合失調症となる児と強迫症状を呈さない児では差異があるのではないかと思い、調べると、臨床症状では強迫症状を呈する群は男子が多く、潜行性発症が多く、陰性症状が強く見られ、脳構造でもMRIでは左の海馬が小さいことがわかった。さらに児童思春期発症の統合失調症は成人期発症に比べて、身体小奇形が多く、側脳室が大きかった。

3つ目の研究は注意欠如・多動症（ADHD）の研究である。ADHDは不注意、多動、衝動性を特徴とする神経発達症（発達障害）であるが、症状の重症度を示す生物学的客観的指標はなかった。我々はそこで認知や注意機能を捉える事象関連電位（ERP）と脳の血流量を測定できる近赤外線スペクトロスコピー（NIRS）に注目した。ADHD児は健常児に比べて、ERPでP300とMMNの振幅が低下していて、重症度と関連することを発見した。また治療薬服用後治療に反応し改善した群はP300とMMNの振幅が増大することがわかり、この検査が治療の有効性を示す指標となることが示唆された。またNIRSにおいてもADHD群は課題中に脳血流量が増加せず、治療後脳血流量が改善することがわかり、NIRSも診断の補助となり、治療有効性の指標となることを示した。

全国的には神経発達症（発達障害）を中心に児童精神医学領域のニーズは非常に高くなっているが、児童精神科専門医の数は非常に少ない。今後児童精神科医となることを希望する医師が増えることを切望する。

令和元年度 公立大学法人奈良県立医科大学決算

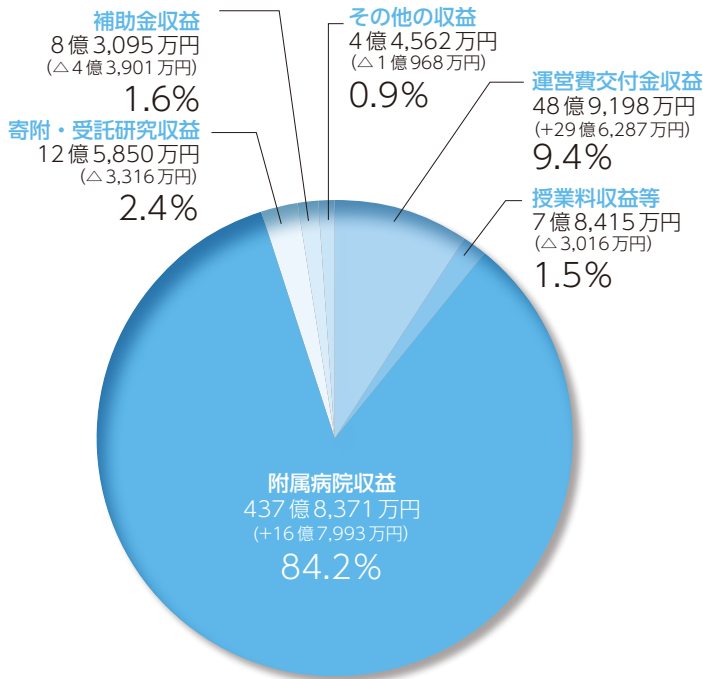
令和元年度決算 収益／519億9,491万円(+40億3,079万円) 費用／527億9,687万円(+49億392万円)

差引 8億196万円の赤字(H30 7,117万円の黒字)

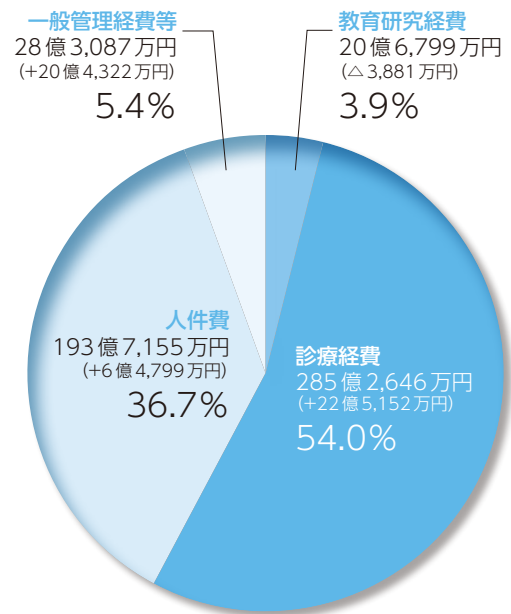
※ () 内は前年との増減額

令和元年度は、電子カルテシステムの更新に伴う患者抑制の影響による入院手技収入の減少、また休日勤務・超過勤務手当の増加（電子カルテ更新対応等）や医師・看護師の増員になどによる人件費の増加などにより、昨年度の0.7億円の黒字から8億円の赤字と収支が大幅に悪化しました。

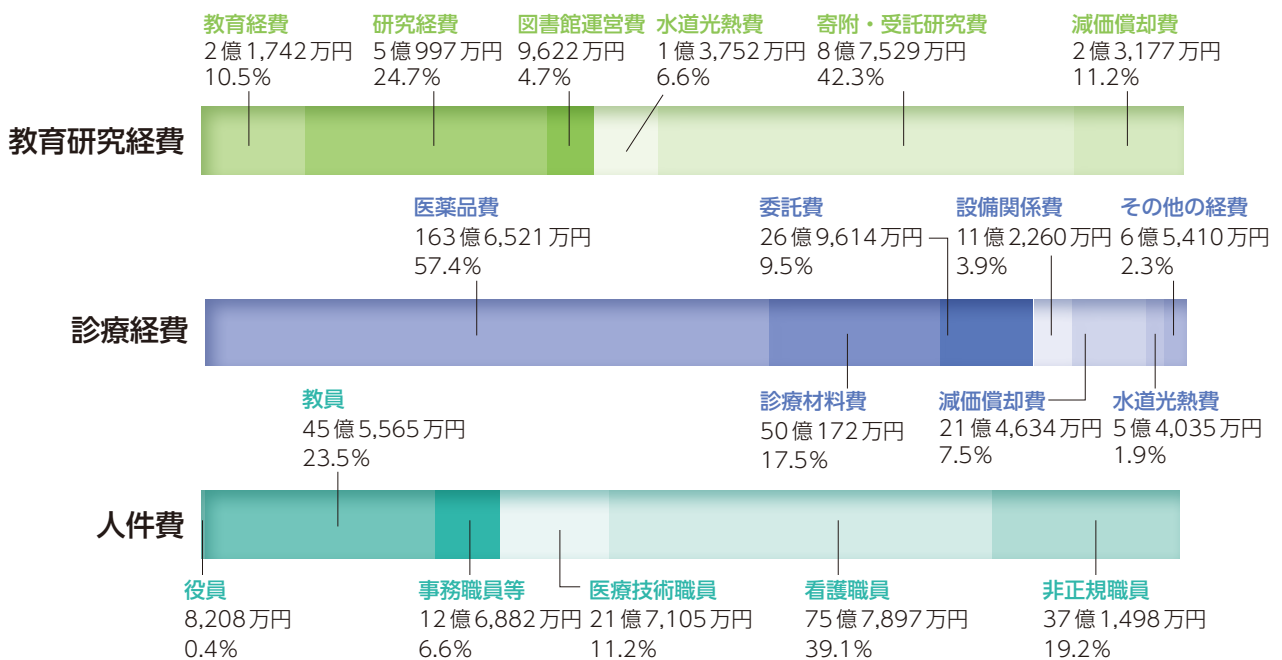
今年度は新型コロナウイルスへの対応による附属病院収益のさらなる減少や電子カルテシステムの償却等により、今後、さらに経営状況が厳しくなることが見込まれますので、皆さまには経費節減など経営改善に向けた取り組みへのご協力を引き続きよろしくお願い申し上げます。



収 益



費 用



令和元年度は、一般財団法人弘済会から、2,000万円の助成を受け、図書館システムの更新や、看護学科棟の空調設備の更新、防犯カメラの設置や手摺の改修などを行いました。

MBT研究所だより (第17報)

1. MBT コンソーシアム体制刷新

MBT コンソーシアムは5つの部会を新設し、10部会体制としました。これは、会員の参加意欲が増すニーズに対応するテーマを明示した部会体制にすることにより、会員企業の参加促進を図るためです。特に、新設された感染症部会には新型コロナウイルス感染予防と感染対策という大きな社会課題に対応するため、さらに5つの分科会を設置し、本学の専門医と会員企業が連携して活動を進めております。(表1)

2. オゾンによる新型コロナウイルス不活化の条件を明確化

MBT コンソーシアム感染症部会 MBT コロナ除菌分科会 (参加メンバー：微生物感染症学矢野寿一教授・中野竜一准教授、感染症センター笠原敬センター長、クオール(株)、三友商事(株)、(株)タムラテコ)は、世界で初めてオゾンガス曝露による新型コロナウイルスの不活化を確認しました。また、その不活化の条件を明示することにより、実用性を学問的に示しました。

5月15日、この件に関するニュースリリースと会見を行いました。今回の成果の反響は大きく、読売テレビ、ABCテレビ、奈良テレビがニュースで放送、奈良新聞、毎日新聞が記事を掲載、全国のメディア19社がWeb版に掲載しました。



矢野教授、笠原センター長の会見

3. 新型コロナウイルス対応「MBT 感染症外来ユニット」提案

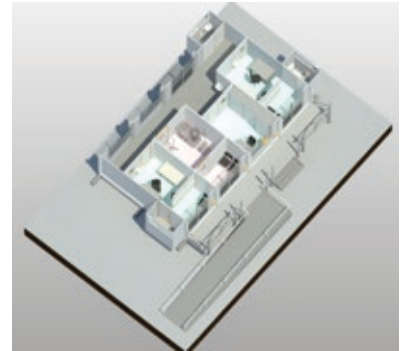
MBT コンソーシアム感染症部会 MBT 感染症外来分科会 (参加メンバー：感染症センター笠原敬センター長、大和ハウス工

表1：MBT コンソーシアム部会体制

部会名	分科会名	活動概要
感染症部会 (新設)	MBT コロナ患者見守り分科会	スマホアプリを用いた患者見守り実用化
	MBT 感染症外来分科会	コロナ感染予防プレハブ型診察外来実用化
	MBT コロナ除菌分科会	オゾンなどによるコロナ除菌実用化
	MBT リンク活用見守り分科会	MBT リンクを活用した患者見守り実用化
	MBT コロナ対策・企業相談分科会	コロナ対策に関する医学的知識の提供
食品衛生部会 (新設)		食の評価・医学的検定
アンチエイジング部会 (新設)		認知症予防や進行評価
通信部会 (新設)		次世代通信応用システム実用化
万博テーマ部会 (新設)		万博会場実証テーマ提案
ビックデータ活用部会		ビックデータとAI連携で新ビジネス創出
スマートコミュニティ部会		再生エネルギー活用による新システム創出、環境改善
健康創造都市・健康創造産業部会		病院、オフィス、在宅の環境改善
MBT 研究所産学連携部会		幼児から高齢者までの健康見守り実用化
産学官連携・フリーディスカッション部会		奈良医大と会員企業とのシーズ・ニーズマッチング

業(株)、大和リース(株)、(株)内藤建築事務所)は、医療従事者の安全確保や医療崩壊を防ぐ手段の一つとして、感染が疑われる外来患者を一般外来と切り離して診察ができる「MBT 感染症外来ユニット」を開発し、奈良県や病院関係者に提案しました。この提案は、11年前の新型インフルエンザ感染拡大時に開発した発熱外来の技術やノウハウに、最新の除菌技術やICT、建築技術で改良を加えたものです。

5月27日に西和医療センターで「発熱外来クリニック」が開発されましたが、着工してから1か月足らずの間に完成させなければならず、「MBT 感染症外来ユニット」開発の知見が活かされたものとなっております。



MBT 感染外来ユニット完成イメージ

4. SafetyNet・MBT の開発

SafetyNet・MBTは、スマートフォンを用いたナースコールシステムで、動脈血酸素飽和度、呼吸数、心電図、心拍数、重篤な不整脈の種別がスマートフォン上に表示されます。

その開発には、これまでは不可能であった種々生体計測を扱う医療機器メーカー間のインターフェース統合が必要であり、古家前附属病院院長をリーダーに、病院管理や経営スタッフ及び関連企業5社が参加するプロジェクト体制を構築して進めてきました。

この2月からは、B棟6階で19台のスマートフォンを用いた実証実験を実施し、現場でも問題なく使えることを確認しました。今後、附属病院では順次病棟に投入していく予定です。また、本システムは国内病院関係者からも注目されており、今後の展開が期待されます。

図書館利用の基礎知識FAQ

図書館で特によく聞かれる事項をまとめました。一部質問については今までの「図書館だより」内で詳しく説明していますので、よろしければそちらもご覧ください。学報バックナンバーは本学ホーム>大学概要>大学紹介>学報よりご覧いただけます。

Q. 本はどうやって探すの？

A. 図書館ホーム上部の「所蔵資料検索」をお使いください。書名や著者名で検索していただけます。読みたい本を見つけたら所在と請求記号を控えて図書館にお越しください。図書館の本は所在別に請求記号順で並んでいます。例えば『ハリソン内科学』なら、所在は図書館2階閲覧室北側単行本、請求記号は493-Harになります。「教室ほか～」は各教室保管です。検索ボックスには「すべての項目」をお使いください。(学報 v.45,46)

Q. 電子ジャーナルを読めますか？

A. 図書館ホーム上部の「電子ジャーナル」をお使いください。誌名で検索できます。読みたいジャーナルを見つけたらリンクをクリックしてください。なお、ジャーナルによって利用できる期間が異なりますので、読みたい巻号が含まれているか公開範囲をご確認ください。一部ジャーナルは複数の出版社で見られるもの（リンクが複数出てくる）や無料で公開されているものもあります。(学報 v.47)

Q. 電子ブックを読めますか？

A. 図書館ホーム上部の「電子ブック」をお使いください。書名等で検索できますが、ひらがな・カタカナの入力はなるべく避け、漢字等をお使いください。読みたい本を見つけたらリンクをクリックしてください。本の一部をダウンロードできるものもあります。学内のネットワークからアクセスいただけるほか、「メディカルオンラインイーブックス」と「Maruzen eBook Library」はリモートアクセスにも対応しています。(学報 v.60)

Q. 文献検索はどのようにするの？

A. 図書館ホーム上部の「文献検索」よりデータベースを選択し、検索してください。海外文献＝「全世界」、国内文献＝「国内」の中のデータベースからお調べいただけます。学報バックナンバー「検索マスターへの道」では、具体的なCQに基づいた検索やPICO、自然語と統制語、PubMed・医中誌以外のデータベース検索方法など文献検索について詳しく解説しています。(学報 v.49-51,53-55,57-59,62,65-69)

Q. PubMed が今まで見ていたものと違うのですが？

A. 2019年11月に大幅リニューアルされました。見た目は大きく変わりましたが、機能的に変わらない部分も多いのでご安心ください。新PubMedについて疑問等あれば図書館までお問合せください。(学報 v.71)

Q. インパクトファクターってどうやって調べるの？

A. 図書館ホーム>オンラインリソース>研究・学習支援ツール>Journal Citation Reportsよりお調べいただけます。毎年6月に改訂されます。調べるときはIE以外のブラウザで、ポップアップブロックは解除してください。(学報 v.70)

Q. UpToDate や DynaMed は使えますか？

A. 図書館ホーム>オンラインリソース>EBM実践支援ツールよりご利用いただけます。UpToDate や DynaMed はリモートでもご利用いただけます。(学報 v.64)

Q. 動画を見られますか？

A. 図書館ホーム>オンラインリソース>テーマ別>動画サイトよりご覧いただけます。「目で見る生化学入門」、「目で見る医学の基礎」、「看護のための病態生理とアセスメント」、「実践！看護技術シリーズ」などがあります。

Q. リモートアクセスってどうするの？

A. 学内ネットワークからのみアクセスできるツールの中に、学外からリモートアクセスできるものがあります。リモートアクセス用のID/PWは学内ネットワークからのみ確認いただけます。学外からリモートアクセスをご利用の際は、まず学内ネットワークから図書館ホームページにアクセスしてリモートアクセス用ID/PWを控えておいてください。一部リモートツールには学内で利用者登録が必要なものもあります。(学報 v.61)

Q. 診療ガイドラインありますか？

A. 図書館で購入しているもののほか、ネット上で公開されているものもあります。診療ガイドライン検索ではMindsホームページ (<https://minds.jcqh.or.jp/>) や東邦大学・医中誌診療ガイドライン情報データベース (<https://guideline.jamas.or.jp/>) がよく使われます。単行本のほか、学会誌の増刊号、ウェブでの公開とさまざまな形態で発行されています。(学報 v.59)

Q. 事務でも役立つ資料はありますか？

A. あります。専門的なものの中には病院経営の本などありますし、電子ジャーナルでは雑誌『病院』などもご利用いただけます。また、医学・看護学以外の本も多少ですが置いています。特に『鉄道ジャーナル』などは一部の方に人気です。職員証で貸出していただけます。

Q. 図書館にない文献を取り寄せたいのですが？

A. まずは「My ないと」にご登録ください。「My ないと」サービスから文献の取り寄せをしていただけます。図書館ホーム>利用案内>学内向け利用案内>文献複写申込方法から「My ないと」の登録申請をしていただけます。なお、文献取り寄せは有料（複写料金＋郵送料）です。

Q. リポジトリって何？

A. 研究機関に所属する研究者の文献を収集・保管し、広く公開するシステムです。本学は「GINMU (ジンム)」という名称で開設しています。本学の紀要や学報なども掲載しています。(学報 v. 34,72)

Q. 図書館にない本をリクエストできますか？

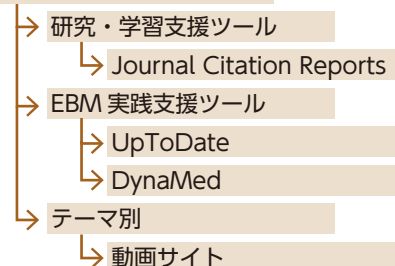
A. 「オピニオン・ボックス」にリクエストしていただけます。図書館内に設置しているボックスに投函していただくか、メール (library@naramed-u.ac.jp) でも受け付けています。過去にいただいたリクエストの一覧を図書館ホーム>オピニオン・ボックスにて公開しています。時期と内容によってはご希望に添えない場合があります。

図書館ホーム上部



オンラインリソース階層

オンラインリソース



未来への飛躍基金だより

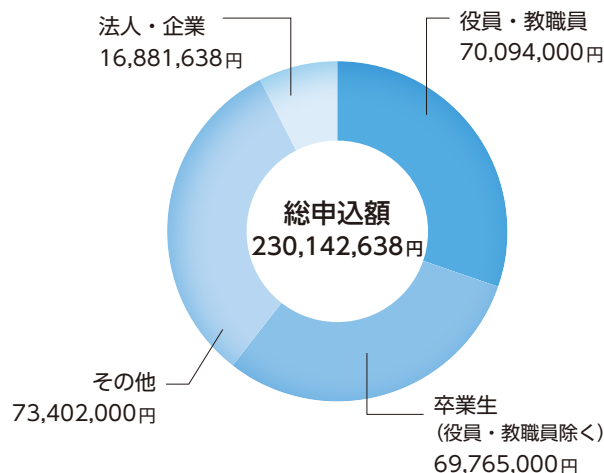
2019年度「未来への飛躍」基金 実績報告

平素より「未来への飛躍」基金に対しご理解とご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

2020年で「未来への飛躍」基金は6年目となります。皆様からのご支援のおかげで2019年度は合計489件、230,142,638円(内4件・1億3千万円の大口寄附含む)の寄附申込をいただきました。

皆様のご厚志は、人材育成を目的とした修学環境の向上や本学と地域社会とのつながりを強化するための取組といった教育・研究活動等に活用させていただきましたので、ご報告いたします。

2019年度寄附申込額内訳



2019年度使用実績内訳

使用実績	支出額 (円)
大学院医学研究科博士課程入学者に対する奨学金	8,939,400
医学科2年生対象の実習(リサーチ・クラークシップ)に対して宿泊費等を助成	6,826,941
学生の研究支援を行う講座等の活動費を助成	2,000,000
医学科6年生対象の病院での臨床実習(医学科臨床実習)に対して宿泊費を助成	150,800
看護学科4年生を対象とした海外研修(国際看護論Ⅱ)に対して宿泊費を助成	110,000
医学科3～6年生、看護学科全学年を対象としたニュージーランドでの海外留学(ADVANCED CLINICAL ENGLISHⅡ)に対して交通費、宿泊費、実習費等を助成	1,680,000
臨床英語での海外への臨床実習・留学の助成	2,199,691
クラブ活動に必要な環境整備への助成	6,151,324
医学科・看護学科の新入学生保護者を対象とした説明会・懇親会への支援	2,465,318
看護学科学生へ実習用白衣及びシューズを授与	1,360,900
医学科生及び看護学科生へ国家試験対策模試費用を支援	1,511,600
本学と地域社会との繋がりを強化するための取組である健康長寿イベントへの助成	1,000,000
臨床研究中核病院承認に向けた、トップクラスの医療提供と医療者の確保・育成を目指すための体制整備(2019年度は他財源から人件費約4,000万円を支出)	21,338,566
募金推進事業(印刷費・郵送費・広報費等)	4,416,776

計 60,151,316円

今後も教育・研究活動等への支援に取り組むとともに、臨床研究中核病院承認取得に対する取組への支援や、キャンパス移転に伴う施設等の整備にも基金より拠出する予定です。このことから、2019年度寄附総額から教育・研究活動等に拠出させていただいた残額を基金に組み入れさせていただいております。

今年度、新型コロナウイルスの影響により遠隔授業のための学習環境の整備が急遽必要となりました。このことから、遠隔授業支援奨学金として対象学生1人につき2万円の給付と、看護学科の学生へ貸与する遠隔授業用のノートパソコン30台の設置において「未来への飛躍」基金を使わせて頂きました。(医学科の学生向けには、医学科同窓会よりパソコン30台の購入費用を別途ご寄附いただき購入いたしました。)少しでも学生の方々の修学にお役立ていただければと願っております。

学生の共著論文が国際的ジャーナルに掲載されました!

ジャーナル掲載

本学学生がリサーチ・クラークシップの研修期間中に携わった共著論文が、国際的に著名なジャーナルに掲載されました。ご指導を賜りました鎌田信彦先生（ミシガン大学）ならびに柴田岳彦先生（東京医科大学）、関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

① Cell

The Intermucosal Connection between the Mouth and Gut in Commensal Pathobiont-Driven Colitis

2020年6月16日 オンライン掲載 [https://www.cell.com/cell/fulltext/S0092-8674\(20\)30681-4](https://www.cell.com/cell/fulltext/S0092-8674(20)30681-4)

三好真緒さん（医学科5年）

② Nature Microbiology

Dietary L-serine Confers a Competitive Fitness Advantage to Enterobacteriaceae in the Inflamed Gut

第5巻 第1号 116頁～125頁 2020年1月発行

三好真緒さん（医学科5年）、西岡 樹さん（医学科4年）

③ The Journal of Clinical Investigation

Respiratory Syncytial Virus Infection Exacerbates Pneumococcal Pneumonia via Gas6/Axl-mediated Macrophage Polarization

第130巻 第6号 3021頁～3037頁 2020年6月1日発行

緒方瑠衣子さん（医学科6年）

ミシガン大学

ジャーナルに掲載されて

医学科5年 三好 真緒

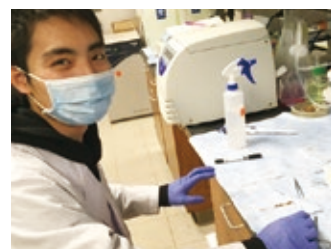
2018年早春、私はリサーチ・クラークシップを通して、世界的にトップクラスのミシガン大学の研究室に籍を置く機会に恵まれました。短期間とはいえ、医学研究の奥深さや楽しさを垣間見られたことは、その後の私の医学に取り組む姿勢を大きく変えてくれたように思います。また、その間に育んだ様々な国籍の人たちとの親交は、かけがえのない宝物となりました。この度、私も携わらせて頂いた研究が Cell 誌、Nature Microbiology 誌に掲載され、非常に光栄に思います。この栄誉を将来に繋げるべく、医学研究に対する興味を持ち続け、日々精進したいと思います。鎌田先生をはじめご指導下さいました皆様方に、改めて感謝申し上げます。



研究室にて

医学科4年 西岡 樹

実習初日の帰りに逆方向のバスに乗ってしまい、泣きそうになりながら真っ暗な道を一人で歩くなどトラブルもたくさんありましたが、ミシガン大学でのリサーチ・クラークシップは本当に素晴らしいものでした。普段の生活とは違い研究のことだけに集中して生活できるので、大学では決して経験できないことがたくさんありました。今回、Nature Microbiology という素晴らしい雑誌への論文投稿に際して、共著者にしていただいたことは大変嬉しいですし、ミシガン大学でお世話になった鎌田ラボの先生方には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ミシガン大学での経験を糧にし、次は自分が first author になって論文投稿できるように免疫学教室での研究に励みたいと思います。



鎌田ラボの実験室にて

MESSAGE (指導教官から)

ミシガン大学医学部消化器内科 助教 (9月～准教授に就任)

鎌田 信彦

私がミシガン大学医学部消化器内科に主催する研究室に、これまで大岡和嵩君、三好真緒さん、西岡樹君の3名が海外クラークシップにより短期留学してくれました。慣れない海外生活やミシガンの厳しい冬に戸惑うこともあったと思いますが、皆高いモチベーションを持って医学研究に取り組んでくれました。3名が携わった研究は科学論文として一流科学誌である『Nature Microbiology』や『Cell』などに掲載、または投稿準備中です。クラークシップの経験を経て、学生さん達が研究マインドを持った臨床医として世界を股にかけて活躍する未来を楽しみにしています。



国立感染症研究所

ジャーナルに掲載されて

医学科6年 緒方 瑠衣子

私は当プログラムで3ヵ月間、国立感染症研究所にて「RSウイルス感染によって誘導される二次性細菌感染の免疫学的メカニズム」の研究に携わらせて頂きました。指導者の柴田岳彦先生は、研究に対する情熱に溢れ、常に弛まぬ努力をされている方です。未熟な私に対し、基礎実験の手法、研究に対する姿勢や心構えなど、研究の核となる部分を懇切丁寧に教えて頂きました。そんな中、恐れ多くも、JCIに掲載された柴田先生の論文に私の名前を入れて頂きました。大変有難く、嬉しく思います。将来は、研究医として研究分野から医療に貢献していきたいと思っています。少しでも先生方に恩返しができるよう、これからも勉強に研究に精進していきたいです。



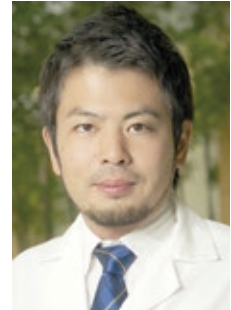
実験の様子

MESSAGE (指導教官から)

国立感染症研究所免疫部 主任研究官
(研究当時)

柴田 岳彦

(現東京医科大学微生物学分野 准教授)



この度、我々の研究成果が Journal of Clinical Investigation に掲載されました。共著者の一人である緒方瑠衣子さん(2016年度配属)は、この研究の駆け出しに参加し、核となる実験結果を取得してくれました。伊藤先生が適任者を派遣してくださったことはもちろんのこと、緒方さんが研究テーマに興味を持ち、積極的に学ぶ姿勢を示してくれたおかげで、想像以上に円滑かつ活発な研究ができました。改めて感謝申し上げます。今後も緒方さんのような学生に研究指導を行えることを楽しみにしております。

MESSAGE

免疫学 教授
伊藤 利洋



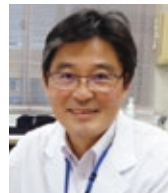
免疫学講座からのリサーチ・クラークシップ派遣先であるミシガン大学ならびに国立感染症研究所から、本学学生が参画した研究成果がこのような一流誌に掲載されましたこと、担当教員として大変嬉しく思っております。学生たちを指導頂きました鎌田先生、柴田先生をはじめ、関係者の皆様方には厚く御礼申し上げます。本リサーチ・クラークシップ制度が始まってから研究に興味を持つ学生は飛躍的に増えております。このような情熱ある高い志を持った学生たちが将来の奈良医大を担う臨床医・研究医となり、本学の発展に寄与してくれることを期待しています。

基礎教育部長
堀江 恭二
(第二生理学教授)



研究の醍醐味の一つは、常に世界と隣り合わせなことだと思います。今回の論文発表は、それを学生さんが肌で感じることできる貴重な例であり、ご指導くださった先生方をはじめ、関係者の皆様方に厚く御礼申し上げます。本学には、リサーチ・クラークシップに限らず、自主的に研究に励んでいる学生さんが多数いらっしゃいます。その数は、他学では、なかなか類を見ないほどであり、本学の財産です。皆さんの創意と若い力で、次は皆さんの成果を世界へ発信してください。応援します。

国際交流センターセンター長
嶋 緑倫
(医学部長)



リサーチクラークシップは研究を実際に体験することにより研究マインドを育成する絶好の機会です。このたび、本学の学生が参加した研究成果が Cell、Nature Microbiology、Journal of Clinical Investigation 誌と超一流誌に掲載されたことを大変うれしく思っています。すばらしい快挙です。また、本学の研究室配属でも全国レベルの学術集会で発表したり、論文の著者になっている学生や研究を継続してくれている学生もいます。リサクラの経験を生かして医師になってからも是非とも研究を続けてほしいと思います。そして、これからも本学のリサクラパワーがますます高まることを期待しています。

国際交流センター副センター長
森 英一朗
(未来基礎医学准教授)



海外リサーチ・クラークシップの教育プログラムでは、過去4年間で合計32研究室に53名を派遣してきております。受入れ研究室で本学学生が関わった研究活動が、このように論文として世に出ることは、大変素晴らしいことでもあります。学生時代の研究成果が論文になるという経験は大きな自信につながるでしょう。また、関わった学生の今後のキャリアに大きな影響を与えることになるでしょう。卒業後のキャリア形成との連続性を持たせ、彼らが活躍出来る環境を整えられるよう、プログラムの益々の充実に取り組んで参りたいと思います。

リサーチクラークシップ

リサーチ・クラークシップとは、医学科2年生を対象としたプログラムで、早期に国内外の研究室に参加することにより、研究マインドを育てることを目的としています。2年生の1月～3月に、海外・国内での10週間の研究室配属を実施しています。

日本の医療・医学を支える医師育成を目指し、今後も積極的に学生のキャリア支援を進めています。

未来への飛躍基金からリサーチ・クラークシップ宿泊費(一部)を助成して頂き、毎年多くの学生が国内外へ約10週間の研究留学を果たしています。学生に貴重な教育機会をご提供頂き、厚くお礼申し上げます。

未来への飛躍基金は、教職員や同窓会の皆様をはじめとした多くの方々のご協力によって成り立っています。

今後とも変わらぬお力添えを賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

看護部の紹介

看護部長挨拶

附属病院副院長 看護部長 看護実践・キャリア支援センター長 橋口 智子

4月1日付で高橋前部長の後任として看護部長を拝命いたしました。

看護部は歴史の中で培ってきた看護の力を活かし、多くの職種の方々と連携協働して日々のケアを提供しています。特に最近の医療・看護環境が高度化・複雑化する中ではチーム医療は欠かせず、多職種とのコミュニケーションは重要です。変化する状況に柔軟に対応できる看護職を育成し、当院の役割である高度先進医療の提供と教育・研究および奈良県の地域医療に貢献できるよう取り組んでいきたいと思っています。また、「人間を愛する心とかけがいのない命を大切にします」という看護部理念の下に、常に「良い看護」とは何かを考え誠実で丁寧な、人間味あふれる看護の提供に取り組んでまいります。

今後とも皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



特定行為研修「急性期コース」を修了しました

救命救急センター 西岡 真衣子

救命救急センター 出口 大樹

中央手術部 駒田 行生

集中治療部 松谷 悠里

今回特定行為研修を受講したことで、看護の視点と医学的な視点を持った患者さんへの関りを行い、患者の状態をより深く観察し対応していこうと考えています。私たち特定看護師が、特定行為を行うことで患者さん・ご家族に対してよりタイムリーに看護、そして医療を提供していけるメリットがあると思います。その反面、正しい知識を持って介入しなければ患者さんにリスクを及ぼす可能性もあり、今後も引き続きより質の高い看護、医療を提供できるように、自己研鑽に努めます。

また、特定看護師はチーム医療のキーパーソンの役割を担っており、多職種との連携を図り、調整役として、患者のニーズに沿った特定行為が提供できるように、各部署で活動していきたいと考えています。



特定行為研修「在宅コース」を修了しました

創傷相談室 皮膚・排泄ケア認定看護師 西林 直子

B棟8階 深松 竜也

私たちは「呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連、ろう孔管理関連、創傷管理関連、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」の特定行為4区分7行為を修了しました。

特定看護師は高度な臨床実践能力を発揮し、チーム医療のキーパーソンとなる役割や、医学的視点と看護学的視点を融合した新たな看護展開を標準化することを期待されています。

これまでの経験を活かしつつ現在、西林は創傷管理関連で、深松は長期呼吸器関連で臨床にて医師に指導を仰ぎながらスキルアップに努め、より体系的に院内で活動できるように準備を進めています。今後は臨床推論を用いたタイムリーなケアを提供できるように自己研鑽に努めます。



認定看護師の紹介

感染管理室 感染管理認定看護師
中村 明世



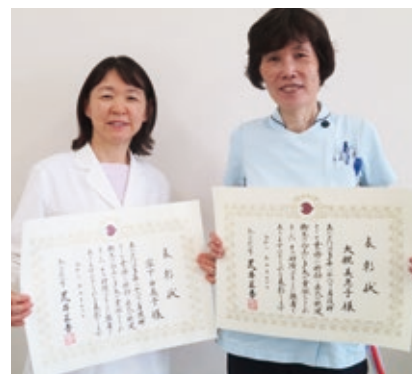
患者さんやそのご家族、病院で働く人々を感染から守ることを大きな目標として感染管理認定看護師の活動をしています。私は、感染対策活動は仲間づくりからだと考えています。多職種と協働して意見を出し合いながら感染対策活動が遂行できるよう、今までの知識やスキルを活かしながら多くの仲間を作り、感染対策を身近に感じられるよう病院・地域医療に貢献したいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

知事表彰を受賞しました

医療安全推進室 医療安全管理者 看護師長 霧下 由美子
B棟8階 看護主任 大槻 美恵子

この度令和2年度看護功労者知事表彰を受賞いたしました。

このような賞をいただくことができ大変光栄に思っております。私たち二人は共に本大学附属病院に勤務し、医療現場



で使命感を持って看護の質の向上に取り組んできました。今までご指導・ご協力していただきました多くの皆様に深く感謝申し上げます。今後も安全で安心できる医療を提供できるよう努めてまいります。

医療職事務支援室の紹介

医療職事務支援室は令和2年4月に附属病院に新設された部署です。室長の川田病院経営部長と室員5名の合計6名で業務にあたっています。

当室は、看護師の事務処理を事務職員（旧看護部事務室）が行っているのと同様に、医療技術職の事務処理も事務職員が行うようにすることで、医療従事者の働き方改革とタスクシフトに資することを目的に設置されました。現在、以下の業務を行っています。

①看護部事務室として行ってきた看護師に関する事務処理

結婚、出産、転居、退職等で事務手続きが必要になった看護師が当室に来られます。手続き方法や準備書類を案内して、手続きがスムーズに進められるように支援します。また、看護部職員全員に必要な書類（出勤簿や休暇簿等）の作成や新規採用者が勤務する際に必要となるもの（ロッカー等）の手配もしており、業務内容は多種多様です。

②医療技術職に関する事務処理

各部署と調整しながら、事務処理（出勤簿の整理等）を順次、引き受けていっています。現在は一部業務のみを引き受けている状況ですが、今後、医療職事務支援室が引き受ける事務業務を増やしていき、医療技術職の職員の負担を軽減できるようにしていきたいと考えています。

③看護部リソースナースセンターの事務

当院にいる特定看護師を活用していくために設置されたリソースナースセンターの事務を担当しています。

新しい部署のため至らないところがあるとは思いますが、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



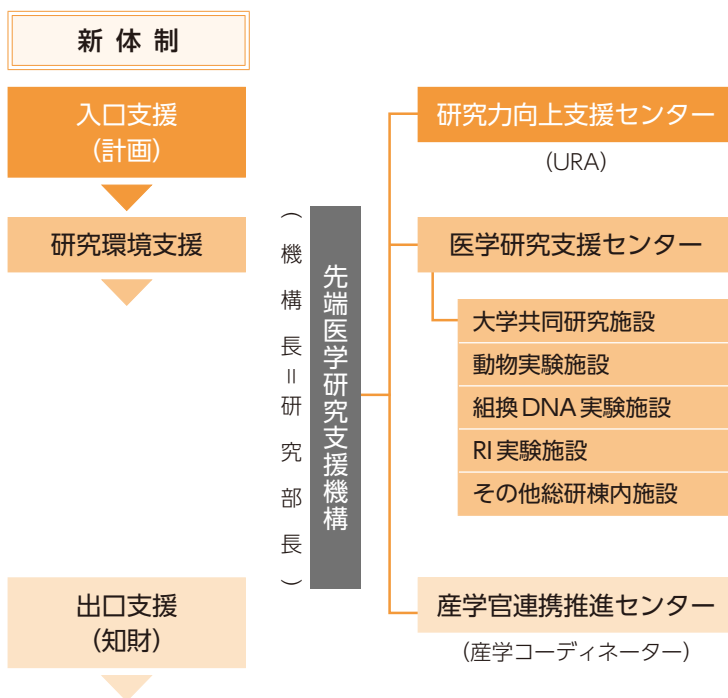
研究力向上支援センター スタート!!

先端医学研究支援機構長（研究部長） 吉栖 正典

本学では、4月より先端医学研究支援機構を設置し、5月には研究力向上支援センターのURA（リサーチアドミニストレーター）として、木村先生に着任していただいています。

同センターでは、本学の研究総合力の一層の向上を図るため、研究の計画段階の入口支援となる、研究助成金獲得面での支援をしていただければと考えています。

これまで木村先生は、文部科学省のけいはんなリサーチコンプレックス事業において、JSTの戦略ディレクターとして大型研究プロジェクトでの研究資金面での支援業務を担ってこられました。また、政府の審議会や審査会の審査員などを歴任され、産学連携の経験も豊富です。ぜひ出口戦略も考えたうえでの支援もしていただけるのではないかと考えています。よろしくお願いいたします。



ご挨拶

University Research Administrator (URA)
特命教授（研究支援） 木村 千恵子

5月にスタートした研究力向上支援センターに着任いたしました。週2回の勤務ですが、奈良県立医科大学の皆様のお役に立てるような支援センターとなるよう微力ながら鋭意努力して参る所存です。

これから、いろいろな機会でお目にかかることがあるかと思えます。その節はどうぞ宜しくお願い申し上げます。

スケジュール

当センターでは、科研費申請に関する情報発信（メルマガ発行）や、支援メニューの紹介などをしていきたいと考えています。

- 6月26日 科研費申請に関する動画講座の開講
- 7月～ 科研費申請作成指導の開始（添削事業）
- 8月 6日 科研費セミナーの開催（講師：和歌山県立医科大学URA・学長特命教授 倉石泰先生）
- 9月14・25日 科研費応募申請説明会の開催
- 10月中旬 科研費応募申請学内締切



*申請に関して、お困りごとやご要望がありましたら、以下メールアドレスまでお知らせください。

【科研費なんでも相談窓口】 goforit@named-u.ac.jp（研究力向上支援センター URA 木村 2521）（研究推進課 村上・岡本 2560）

2.25 ~ 3.25 ルール大学 (ドイツ) から実習生が来学しました

本学とルール大学との学術交流協定に基づき、臨床実習生として、ルケン・イルディズ (Ruken Yildiz) さんが、本学に来学しました。

ルケンさんは、2月25日から実習開始の予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、来日早々実習ができなくなりました。このままでは実施が危ぶまれていましたが、放射線腫瘍医学の長谷川教授、腫瘍センターの神野病院教授のご協力で、患者さんとは接触しないなどの制限のもとに、1週間後の3月3日から実習を開始することができました。いつもとは異なる体制での実習でしたが、たくさんの専門的な知識が得られたと、ご本人はとても満足した様子でした。

滞在中は、他の外国人学生や病院スタッフとも交流し、近郊での観光も楽しむことができたようです。今井町ゲストハウスについても、大変気に入っていただけました。

新型コロナウイルス感染症の影響で、外国人学生の実習はキャンセルが続いています。この世界的な感染症が、一日でも早く収束することを願っています。

(滞在の感想は、国際交流センターの学内ホームページ (VOICE) に掲載しています。)



放射線治療室での放射線治療見学の風景 (奥がルケンさん)



安全に配慮した抗がん剤の調整実習中の風景 (奥がルケンさん)

4.21 陽子線がん治療研究センター 活動状況報告会の開催

本学では、平成30年度に奈良県天理市の高井病院内に陽子線がん治療研究センターを設置するとともに、本学の連携大学院として陽子線の研究を実施しています。

このたび、同センターの活動状況報告会を開催し、長谷川センター長 (放射線腫瘍医学 教授) より、いままでの取り組みとこれからの展望について発表いただきました。



陽子線がん治療研究センター



陽子線がん治療研究センター
長谷川正俊 センター長
(放射線腫瘍医学 教授)

4.22 MBT コンソーシアム参加企業様から オゾン消毒器をいただきました

新型コロナウイルス感染症対策のため、MBT コンソーシアム参加企業である株式会社タムラテコ、三友商事株式会社、及びフオールホールディング株式会社の3社から、新型コロナウイルス治療の最前線である附属病院で役立つオゾンガス消毒器の寄贈を受けました。当該機器は、持ち運びも出来る取扱の容易なもので、今後コロナウイルスの消毒の手段として期待できます。



MBT コンソーシアム参加企業から寄贈を受ける細井理事長・学長

4.28

MBTで、新型コロナ対策を迅速に！

MBT 研究所運営会議では、新型コロナウイルス対策で、MBT コンソーシアム感染症部会と協力して取り組むことを議論しました。

来たる6月25日に、オンラインを活用したMBT オープンミーティングを実施し、オムロン株式会社インキュベーションセンター長の竹林 一氏による講演会等を開催することとしました。

また、クオール薬局のデジタルサイネージを活用して、新型コロナウイルスの対策について、感染症センター 笠原センター長の監修による、手洗い動画を放映することを議論しました。

MBT の研究スキームを最大限に発揮して、新型コロナ対策の活動は迅速に行わねばならないと、MBT 研究所の細井所長より檄が飛びました。



新型コロナ対策での運営会議の様子

5.22

感染症外来ユニットや新型コロナウイルス対策を強力に推進します

MBT 研究所運営会議では、西和医療センターに設置されたMBT 感染症外来ユニットや6月25日の MBT 講演会の Web 開催を中心に議論を行いました。

現在、奈良医大とMBT コンソーシアムとが共同研究を実施した「世界初新型コロナウイルスの不活化」の報道発表により、新聞やテレビでも取り上げられたこともあり、新型コロナウイルスの関連企業との共同研究の希望が増加しており、感染症対策を強力に推進しています。

また、オゾンガスによる新型コロナウイルスの不活化での共同研究企業でもあるクオール薬局のデジタルサイネージでは、報道でも話題になったオゾン関連の展開も行う予定で今後が楽しみです。



新型コロナウイルス感染症対策も議論

5.28

医学科同窓会から学生に貸与するためのパソコン購入費用をご寄附いただきました

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、本学でも4月からオンラインによる遠隔授業を実施しています。しかし、学生のオンライン環境調査を実施した結果、遠隔授業での学修環境が不十分な学生もいるため、大学からパソコンを貸し出すことを決定しました。このパソコンの購入費用を医学科同窓会からご寄附いただきました。

このような心温まるご寄附をいただき、厚くお礼申し上げます。賜りましたご厚志は学生の学修環境整備に有効に活用させていただくとともに、今後も良き医療人の育成に取り組んでいきます。



貸出用パソコン

6.10

遠隔授業支援金の給付について

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、オンラインによる遠隔授業を実施するにあたり、学生のみなさんが Wi-Fi 環境、通信機器等の学修環境の整備が必要となりました。

学修環境整備費用の負担を少しでも軽減できるよう、法人・団体、同窓生、保護者及び教職員等からの寄附による「未来への飛躍」基金を財源として、学生1人あたり2万円の「遠隔授業支援特別奨学金」を給付しました。

現在は、緊急事態宣言が解除されていますが、新型コロナウイルス感染症はまだ予断を許さない状況です。大学教職員は一丸となってこの事態を乗り越え、みなさんが良き医療人となるように、努力していきたいと思っています。

5.29

~6.30

公的研究費の適正使用に係る研修会を開催しました

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大予防対策のため、公的研究費の適正使用に係る研修会及び経理事務等説明会は Web 上の動画配信で開催しました。今年度は新たに、安全保障輸出管理制度のもと、研究費の支出資料として必要となる研究機材や物質の輸出、国際学会への参加、海外への論文投稿等の必要資料や手続きを中心に説明しています。

また、各所属には、コンプライアンス教育を徹底するため「公的研究費不正防止計画実施状況報告書」の提出も求めております。

説明会は5月29日から6月30日まで配信しましたが、多数の研究者、教室職員等にご覧いただき、理解度チェックを提出していただきました。

今回の説明会資料については、研究推進課の学内HPに資料や様式がありますので、ぜひご利用ください。

<http://www.naramed-u.ac.jp/gakunai/soshiki/kenkyu/yoshiki/kakushuyoshiki.html>



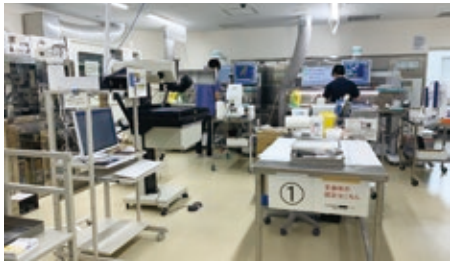
研修会の様子

6.1 病理遺伝子解析ユニットについて

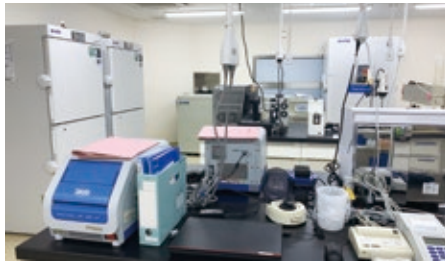
病理診断科・病理部 大林 千穂

病理検体を取り扱う「病理遺伝子解析ユニット」がA棟3階旧手術室に完成し、6月1日より稼働しました。これはゲノム診療を確実に実施するために病理検体を適正に管理し、分子診断を行うための施設で、①臓器処理室、②組織・遺伝子保存室、③遺伝子解析室の3室から成ります。①臓器処理室は外科系全診療科に利用していただけるよう整備したもので、ゲノム医療関連学会の指針に従い切除後速やかに新鮮検体を採取・スナップ凍結したのち適正にホルマリン固定、凍結検体は②組織保存室の超低温庫で保管し、デジタル管理により患者検体を迅速に取り出せます。③遺伝子解析室ではNGSなどの検査機器や細胞培養室を整備し、診療・研究を目的とする分子レベルの解析

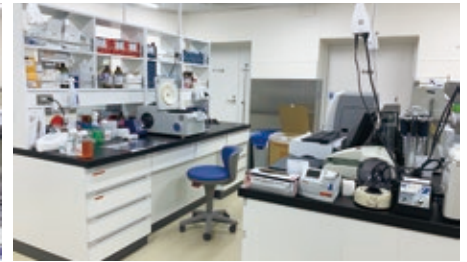
に対応します。臓器横断的な凍結検体の保管・管理はがんゲノム医療中核拠点病院の指定要件になっており、奈良県のゲノム診療を担う当院はこれに適合する環境を整備し、県民のがん医療に貢献いたします。またデジタル管理した凍結検体のアーカイブズは個人情報をしっかり保護しつつ、臨床と基礎でのトランスレーショナルリサーチの発展に寄与することが期待されます。今後このユニットが十分に機能するためには設備だけでなく「人」が重要な要素です。臨床医、病理医の情報交換は医療の質を上げ、また医師から技師や事務要員へのタスクシフトにより本ユニット機能に持続性を持たせることができると考えております。



①臓器処理室



②組織・遺伝子保存室



③遺伝子解析室

6.11 横断的共同研究助成事業及び若手研究者研究助成事業が採択されました

本学の研究の一層の推進を目指して行われている横断的共同研究助成事業・若手研究者研究助成事業について、今年度は下記の研究課題が採択されました。

本学の将来像に定めた横断的共同研究を推進するための横断的共同研究助成事業には、9件の応募があり、感染症センター 笠原病院教授が研究代表者である共同研究が採択され、500万円が助成されます。

また、若手研究者研究助成事業には11件の応募があり、下記の8名が採択され、それぞれ50万円が助成されます。

横断的共同研究助成事業 採択者

所属名	職	氏名	研究課題名	共同研究者
感染症センター	病院教授	笠原 敬	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 対策強化に資する基盤研究	免疫学 教授 伊藤利洋、微生物感染症学 教授 矢野寿一、呼吸器内科学 教授 室繁郎、救急医学 教授 福島英賢、動物実験施設 教育教授 久保薫、免疫学 講師 北畠正大、集中治療部 助教 園部奨太、免疫学 助教 古川龍太郎、救急医学 助教 多田祐介、感染症センター 助教 今北菜津子、呼吸器内科学 病院助教 長敬翁

若手研究者研究助成事業 採択者

所属名	職	氏名	研究課題名
未来基礎医学	助教	菊池壮太郎	減数分裂型コヒーシンの構造基盤
生理学第二	講師	坂野 公彦	ヒトiPS細胞から血管内皮細胞への分化誘導の効率化および血管発生機構の解明
微生物感染症学	助教	鈴木 由希	カルバペネム耐性アシネトバクター属の発生源はどこか、拡散防止策の構築を目指して
免疫学	助教	古川龍太郎	エピジェネティクスによる慢性閉塞性肺疾患 (COPD) に合併する呼吸器感染症のメカニズム解明
口腔外科学	医員	高橋 佑佳	味蕾の細胞増殖や維持メカニズムの解明
精神医学	助教	浦谷 光裕	注意欠如・多動症の薬物治療反応性を規定する神経基盤の解明
泌尿器科学	助教	大西美貴子	夜間頻尿が尿路時計遺伝子と睡眠に及ぼす影響～夜間多尿モデルラットを用いた検討～
リハビリテーション科	助教	小林 恭代	造影超音波を用いた血管リモデリングと頸動脈プラーク不安定化の関連についての検討

6.11

V-iCliniX 講座 運営委員会を 開催しました

中谷医工計測技術振興財団の長期大型研究助成を活用して設置した寄附講座「V-iCliniX 講座 (生体 5 次元インフォマティクス国際統合ハブ)」の運営委員会は、新型コロナウイルスの影響により、オンラインを活用しての開催となりました。

まず、佐藤教授から研究の進捗状況についての説明があり、コロナウイルスの関係で、進捗に関しても影響を受けたことでしたが、研究を進める意欲が高く感じられる会議でした。



委員会の様子

6.12

大学院看護学研究科のオープンキャンパス 2020 を Web 開催しました

例年 6 月中旬に開催している大学院看護学研究科のオープンキャンパスは、今年は、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、ホームページにおける動画配信により開催しました。

「看護学研究科の紹介と特徴」、「看護学コースの概要」、「助産学実践コースの概要」、「周麻酔期看護師教育課程の概要」について、各教授よりご説明いただいた動画は、8 月下旬までホームページで公開中です。

令和 3 年度の入学試験は、8 月 24 日 (二次募集: 12 月 1 日※) に実施されます。

※一次募集の結果によって、二次募集を実施しない場合があります。



**奈良県立医科大学
大学院看護学研究科
オープンキャンパス 2020**




奈良県立医科大学 大学院看護学研究科
研究科長 石澤 美保子

看護学研究科長による看護学研究科の紹介と特徴

6.20

オンラインで英語の繋がりを!

医学科 6 年 田中 俊志
齊藤 正一郎
藤中 加奈

本学の 6 年生有志中心に、部活動など上回生とのコミュニケーションの場がない 1 年生への場の提供と、学生の英語力向上のためのオンライングループが 4 月から立ち上げられました (English Chatting Group : ECG)。

この活動は、奈良医大生だけでなく全国 17 大学 (*) から 40 人以上の医療系学生にも輪を広げています。

参加者はオンライン上で 4 ~ 5 人の小グループに分かれ、週 3 回 40 分間お互いの近況や地域の情報などを英語で話し合います。

企画・開催は完全に学生主体で行われていますが、5 月以降は臨床英語講座の先生方にも参加していただき、活動はさらに充実したものとなっています。

自粛期間のストレスや疎外感を低減するだけでなく、普段交流のない遠くの医療系学生と交流も図れており、さらに英語力の向上にも寄与しております。

*参加大学…旭川医科大学、埼玉医科大学、東京大学医学部、慶應大学医学部、横浜市立大学医学部、滋賀医科大学、京都大学医学部、京都府立医科大学、京都薬科大学、大阪医科大学、大阪大学医学部、広島大学医学部、山口大学医学部、徳島大学医学部、高知大学医学部、産業医科大学、熊本大学医学部



6.25 MBT セミナーを開催しました

定期的に開催している MBT セミナーは、新型コロナウイルス感染対策として、ZOOM によるオンラインで行いました。セミナーには 144 名の参加申込があり、改めてオンラインによる新時代到来を予感するセミナーとなりました。

冒頭、細井理事長から、MBT の基本精神は医学知識を企業に提供しイノベーションを起こす社会貢献活動であり、この成果を新型コロナ対策にも生かしたい、と意気込みを述べられるとともに、本学と MBT コンソーシアムは、これまで感染症の対策と撲滅を目指し連携を進め、オゾンによる新型コロナウイルス不活化の研究、MBT 感染症外来ユニットの提案、と短期間に大きな成果を上げたことを紹介しました。

次に MBT 研究所 梅田副所長からは、MBT LINK の新たな技術展開構想の紹介があり、オムロン株式会社の竹林一氏からは、“未来の自立社会に「便利」と「感動」のデザインを”と題して、講演を頂き、ウィズコロナ・アフターコロナの世界を見据えた MBT 活動の展開を提示しました。



オンラインで挨拶を行う細井理事長

6.30 MBT コロナ対策企業相談を開始

MBT 研究所運営会議では、6 月 25 日に開催した MBT On-Line セミナーの報告及び Web 開催における課題の共有を行いました。また、新型コロナウイルス不活化に関する各企業からの研究依頼の状況報告や、報道機関等からの MBT の取材について、対応等の打合せを行いました。

現在、企業から新型コロナウイルス感染症対策の問い合わせが多くなってきていることから、医学的知見による新型コロナウイルス感染症対策相談体制を整備し、受付や案内方法等の確認を行いました。今後も医学知識を企業等に提供し、イノベーションを起こす社会貢献活動を推進していきます。



運営会議の様子

学内向け広報グッズ貸出について

秘書広報室では、学内の行事等で広く使っていただけるよう、イメージキャラクターであるしょうとくた医師くんのマスコット人形（約 25cm）と卓上の法人旗を貸出しています。インタビュー時の貸出用バックボード（布製：縦 1,500mm×横 2,062mm）も用意しておりますので、ご活用ください。

また、本法人を紹介するツールとして、教育・研究・診療の概要をまとめた法人案内（日本語版、英語版）も用意しております。しょうとくた医師くんのクリアファイル、マスキングテープと一緒に、来客時、他学・他院との交流時に配付する等の用途にご活用ください。希望される場合は、下記にお問い合わせをお願いします。広報グッズについては、予算の範囲内で作成しておりますので在庫がなくなった場合はご容赦ください。

お問い合わせ先：秘書広報室（総務課）内線：2206



Winner Report

5.28

国際ソロプチミスト奈良—あすか大学院 女子学生奨学金クラブ賞を受賞しました

国際ソロプチミストは、職業に就いている女性の世界的な組織で、女性と女兒の生活向上のため、奉仕活動を実施されており、国際ソロプチミストアメリカ日本中央リジョンは学業・人材ともに優秀な女性の大学院生を対象として、将来社会に貢献し得る人材を育成するための奨学金を設置しています。

女性研究者・医師支援センターからの推薦により、小児科学講座の大西智子先生が「包括的凝固/線溶ダイナミクス解析を基盤とする播種性血管内凝固(DIC)の新規診断法確立に関する探索的研究」という研究テーマで国際ソロプチミスト奈良—あすか大学院女子学生奨学金クラブ賞を受賞されました。

国際ソロプチミスト奈良—あすかの田中礼子会長、アワード委員会の南本由香里委員長からは、育児や臨床業務と両立しながら学業や研究にも熱心に取り組まれていると高い評価をいただきました。女性研究者・医師支援センターでは、今後も優秀な女性の活躍を応援していきたいと思っております。



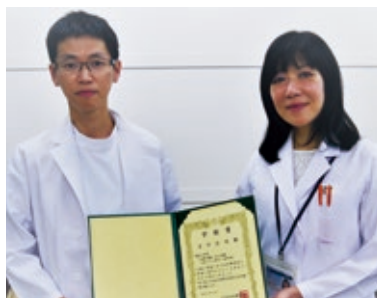
左より 嶋センター長、大西診療助教、須崎マネージャー

5.29

令和2年度日本白内障学会学術賞 を受賞しました

眼科学 医員 吉川 匡宣

第59回日本白内障学会(2020年5月29日からWeb開催)において日本白内障学会学術賞受賞及び記念講演「白内障が健康へ及ぼす影響:生体リズムに着目した疫学研究」を行いました。日本白内障学会は昭和39年に発足した歴史ある会です。学術賞は白内障に関する優れた業績をあげ、白内障研究を継続している若手研究者に贈られています。我々の研究は生体リズム障害に着目し白内障が視機能障害だけでなく健康へ影響する可能性を示したことが評価されました。本受賞にあたりご指導いただいた本学疫学予防医学講座の佐伯圭吾教授・大林賢史特任准教授、当講座の緒方奈保子教授に深謝致します。

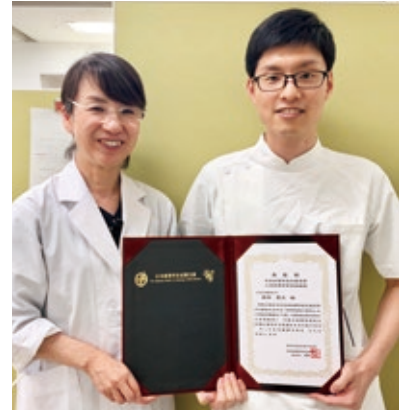


6.2

第85回日本病理学会近畿支部学術集会で 人体病理学学術奨励賞を受賞しました

病理診断学 医員 新田 勇治

この度、第85回日本病理学会近畿支部学術集会で人体病理学学術奨励賞を受賞しました。受賞演題は「若年女性に発生した大腿軟部腫瘍の1例」です。本発表にあたり御指導を賜りました大林千穂教授、ならびに御指導・御協力頂きました多くの先生方にお礼申し上げます。本受賞を励みに、今後も病理診断に邁進してまいります。

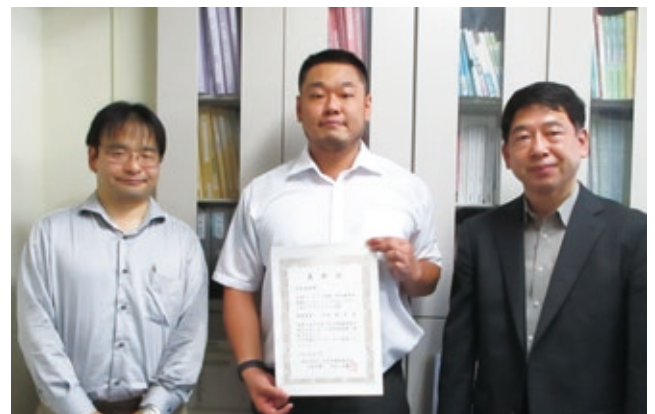


6.5

第24回日本医療情報学会春季学術 大会で研究奨励賞を受賞しました

公衆衛生学 医学研究科博士課程3年 久保 慎一郎
(看護部 情報管理室 技師)

2019年11月に千葉県で行われた医療情報学連合大会で発表しました「レセプト情報・特定健診等情報データベース(NDB)を用いた死亡アウトカムの追跡」の研究で研究奨励賞を受賞しました。レセプトのデータから転記死亡の精度を高めてアウトカム指標とし、さまざまな集計に活用可能な基盤技術の開発を行いました。研究奨励賞は、35歳以下の演者の中で優れた演題を表彰するものです。2020年6月に行われた第24回日本医療情報学会春季学術大会の開会式で表彰されました。ウェブ開催でしたので、当日は不慣れな点もございましたが、後日郵送で表彰状を受け取りました。表彰に際してご指導いただきました今村教授、野田准教授をはじめとして事務室の皆様や関係者各位にお礼申し上げます。

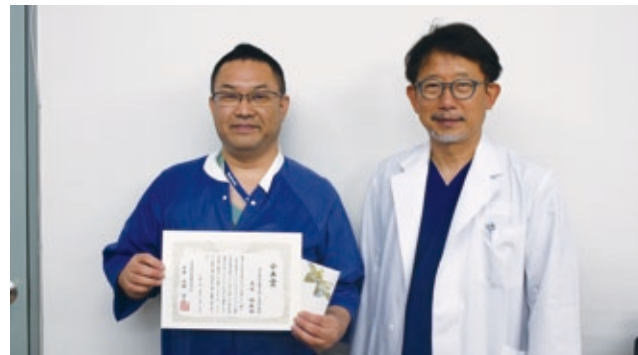


6.16 2020年度日本神経生理検査研究会会長賞を受賞いたしました

中央手術部 助教 高谷 恒範

このたびは、2019年度臨床神経生理学に掲載された、対象論文：「術中神経モニタリングにおけるチェックリストの運用と安全管理の現状について」高谷恒範、重松英樹、本山 靖、中瀬裕之、川口昌彦 47巻3号2019が優秀であることを賞され会長賞を受賞することができました。ありがとうございました。

今後も、さらに研究に励む所存です。本研究にあたり多大なるご指導を賜りました川口昌彦教授、中瀬裕之教授をはじめ、ご協力頂きました皆様に厚く御礼申し上げます。



令和2年度 文部科学省科学研究費助成事業の決定

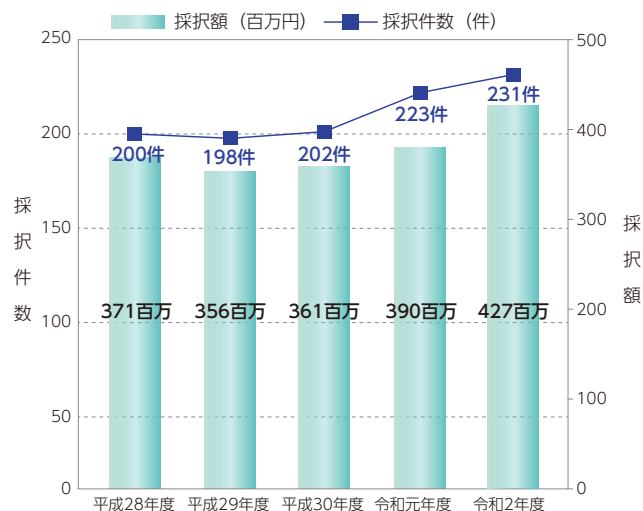
基盤研究 (A) に3件新規採択されました!!

令和2年度 科学研究費助成事業 (科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金 (文部科学省、独立行政法人日本学術振興会)) が決定しました。今年度は基盤研究 (A) に3件新規採択されるというめざましい成果を上げ、継続分1件と合わせて4件を獲得しました。

来年度においても積極的な応募申請をよろしくお願い致します。

令和2年5月1日現在の状況は下記のとおりです。

	採択件数 (件)	採択額 (千円)	採択額 (千円)	
			直接経費	間接経費
令和2年度	231	426,980	328,700	98,280
令和元年度	223	390,040	300,280	89,760
平成30年度	202	360,620	277,400	83,220
平成29年度	198	355,990	273,970	82,020
平成28年度	200	371,033	285,710	85,323



令和2年度 文部科学省科学研究費助成事業 (科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金) 一覧

研究種目	教室名 (R2.5.1)	職名 (R2.5.1)	氏名	研究課題名	研究期間
基盤研究 (A)	公衆衛生学	教授	今村 知明	データ科学・疫学・臨床医学の融合による日本の保険診療情報 (NDB) の全解析	2018～2022
基盤研究 (A)	発生・再生医学	教授	栗本 一基	組織学と複合した単一細胞DNAメチル化解析法による原始卵胞淘汰過程の解明	2020～2024
基盤研究 (A)	血栓止血研究センター (血栓止血先端医学)	センター長	嶋 緑倫	血友病A治療を目指したユニバーサル細胞療法の創出	2020～2023
基盤研究 (A)	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	疫学と臨床医学、情報工学の融合によるデータベース医学の標準的疾患定義の開発	2020～2024
新学術領域研究 (研究領域提案型)	発生・再生医学	教授	栗本 一基	組織学的情報とリンクした単一細胞遺伝子発現プロファイル動態の解明	2018～2022
新学術領域研究 (研究領域提案型)	精神医学	准教授	牧之段 学	幼少期社会的経験が形づくる前頭前野-視床回路の同定	2019～2020
新学術領域研究 (研究領域提案型)	第二生理学	助教	吉田 純子	変異ES細胞を用いた分化状態と未分化状態の遷移制御機構の解析	2020～2021
基盤研究 (B)	看護学科 成人急性期看護学	教授	石澤 美保子	在宅看護における医療関連機器圧迫創傷の予防および管理方法の構築	2017～2020
基盤研究 (B)	精神医学	教授	岸本 年史	多次元解析による神経性無食欲症のサイコバイオティクスの同定：治療薬の創発に向けて	2018～2021
基盤研究 (B)	放射線腫瘍医学	教授	長谷川 正俊	高LET放射線と抗VEGF抗体の併用によるグリオーマ幹細胞制御機構の解明	2018～2021
基盤研究 (B)	脳神経外科学	教授	中瀬 裕之	EGFRvIII特異的CAR発現iPS由来NK細胞を用いた膠芽腫治療の基盤的研究	2018～2020
基盤研究 (B)	第一解剖学	教授	西 真弓	新規行動解析システムによる幼少期生育環境が脳及び行動に及ぼす影響の神経基盤の解明	2019～2022
基盤研究 (B)	循環器内科学	教授	斎藤 能彦	慢性腎臓病に合併する心不全発症におけるアフターロードミスマッチの分子機序の解明	2019～2021
基盤研究 (B)	消化器・総合外科学	教授	庄 雅之	難治性消化器癌に対する治療抵抗性克服による新規集学的免疫治療戦略の開発	2019～2022
基盤研究 (B)	麻酔科学	教授	川口 昌彦	術後生活機能障害の5年間追跡調査とプレハビリテーションプログラムの有効性評価	2019～2023
基盤研究 (B)	疫学・予防医学	特任准教授	大林 賢史	光曝露が糖尿病・心血管疾患・がん・認知症の発症および予後に及ぼす中長期影響	2019～2023
基盤研究 (B)	看護学科 在宅看護学	教授	小竹 久美子	喉頭全摘出者のQOL向上へつなげる看護体制の構築：RCTによる縦断的介入	2019～2022
基盤研究 (B)	第二生理学	教授	堀江 恭二	全能性状態の誘導による人工的動物個体作製法の開発	2020～2023
基盤研究 (B)	未来基礎医学	准教授	森 英一朗	生物学的相分離の制御機構	2020～2022
基盤研究 (B)	精神医学	准教授	牧之段 学	小児期栄養環境が形づくる髄鞘構造とその精神症状への効果の検討	2020～2022

Winner Report

研究種目	教室名 (R2.5.1)	職名 (R2.5.1)	氏名	研究課題名	研究期間
基礎研究 (B)	看護学科 基礎看護学	講師	西村 亜希子	糖尿病高齢者に特化したテラーメイド型フレイル発症・進展予防ケアモデルの確立	2020～2023
基礎研究 (C)	呼吸器内科学	准教授	山内 基雄	多系統萎縮症に合併する睡眠呼吸障害の多様性—呼吸管理から生命予後改善をめざす—	2017～2020
基礎研究 (C)	呼吸器内科学	講師	本津 茂人	肺線維症合併肺癌に対する制御性T細胞を標的とした新たな治療戦略の探索	2017～2020
基礎研究 (C)	第一生理学	教授	齋藤 康彦	垂直眼球運動系の神経積分器における持続的活動を生成するための神経回路メカニズム	2018～2020
基礎研究 (C)	第二解剖学	教授	和申 明生	GABA神経伝達に特化した新しいアストロサイト集団の同定とその機能解析	2018～2020
基礎研究 (C)	病理診断学	講師	藤井 智美	膀胱癌特異的なマイクロRNAおよび遺伝子発現機序に基づいた病理組織学的診断の確立	2018～2020
基礎研究 (C)	小児科学	特任助教	小田 朗永	脾臓腫瘍外造血制御とその破綻の分子機構解明と造血幹細胞培養系の確立	2018～2020
基礎研究 (C)	免疫学	助教	王寺 典子	HLA-Fを標的とした新規がん免疫療法およびがん診断マーカー開発	2018～2020
基礎研究 (C)	総合医療学	教授	西尾 健治	癌の増大と転移へのADAMTS13/VWF 因子の影響	2018～2020
基礎研究 (C)	放射線医学	准教授	田中 利洋	切除不能・再発肺癌に対するミセル化ナノ粒子を用いた肺動注療法の開発	2018～2020
基礎研究 (C)	RI実験施設	准教授	菓子野 元郎	遅発性活性酸素を抑制するがん細胞特異的因子は放射線治療の標的となりうるか	2018～2020
基礎研究 (C)	血友病教育	助教(寄附講座)	矢田 弘史	自己抗体産生におけるインターフェロン誘導性ヒストン修飾酵素SETDB2の機能解明	2018～2020
基礎研究 (C)	小児科学	准教授	野上 恵嗣	血液凝固における第Ⅶ因子制御軸の解明と血友病A及び血栓性疾患の新規治療薬への応用	2018～2020
基礎研究 (C)	循環器内科学	学内講師	尾上 健児	心筋疾患に対する新たな臨床応用可能な核酸医薬の開発と評価	2018～2020
基礎研究 (C)	臨床研究センター	講師	空閑 周	心臓交感神経イメージング法を用いた右心不全に対する治療効果判定および予後評価	2018～2020
基礎研究 (C)	腎臓内科学	教授	鶴屋 和彦	慢性腎臓病高齢者を対象とした認知機能障害と動脈硬化に関する縦断的コホート研究	2018～2020
基礎研究 (C)	免疫学	講師	北島 正大	自己抗体産生におけるインターフェロン誘導性ヒストン修飾酵素SETDB2の機能解明	2018～2020
基礎研究 (C)	消化器・総合外科学	准教授	池田 直也	トリプルネガティブ乳癌における新規免疫不活化経路阻害分子探索および治療への展望	2018～2020
基礎研究 (C)	麻酔科学	講師	林 浩伸	胸部大動脈人工血管置換術中のレーザースペックルフローグラフィによる眼血流測定	2018～2021
基礎研究 (C)	集中治療部	病院教授	井上 聡己	スーパーオキシドリッチ環境が脳虚血再還流に与える影響	2018～2021
基礎研究 (C)	血栓止血先端医学	准教授	辰巳 公平	骨・肝・脂肪の臓器連関の視点からみた糖尿病性骨粗鬆症における組織因子の役割の解明	2018～2020
基礎研究 (C)	産婦人科学	医員	小川 憲二	CD44のバリエーションフォームをターゲットとした子宮内膜症の新規治療法の確立	2018～2020
基礎研究 (C)	産婦人科学	助教	山田 有紀	子宮内膜症の微小環境における酸化還元反応のバランス変化に基づく発癌仮説の構築	2018～2020
基礎研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	医員	北野 公一	メニエール病診断法の開発—内リンパ水腫の新しい評価法の確立—	2018～2020
基礎研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	学内講師	山下 哲範	新規耳鳴治療のための耳鳴動物実験モデルの確立	2018～2020
基礎研究 (C)	眼科学	教授	緒方 奈保子	眼の加齢性変化と全身因子、生活環境、QOL	2018～2020
基礎研究 (C)	口腔外科学	医員	山本 一彦	口腔癌における反復配列RNAの発現と機能の解明	2018～2020
基礎研究 (C)	口腔外科学	博士研究員	杉浦 勉	即時荷重インプラントの荷重下で生じるマイクロモーションの定量的予測と最適治療指針	2018～2020
基礎研究 (C)	口腔外科学	医員	栗原 道	MIA2関連シグナルを標的とした口腔癌の分子診断・治療の新展開	2018～2020
基礎研究 (C)	口腔外科学	学内講師	川上 正良	顎顔面の形態発生を制御する新規シグナル伝達機構	2018～2021
基礎研究 (C)	看護学科 成人慢性期看護学	講師	升田 茂章	外来化学療法を受ける患者の手足症候群を予防するための看護ケアプログラム開発	2018～2020
基礎研究 (C)	看護学科 在宅看護学	講師	栗田 麻美	がん終末期在宅療養者における訪問看護師の臨床判断の実態とプロセス	2018～2020
基礎研究 (C)	看護学科 成人慢性期看護学	講師	石橋 千夏	クローン病患者のセルフマネジメントの実態と関連する要因	2018～2020
基礎研究 (C)	看護学科 老年看護学	教授	澤尻 一枝	認知症予防における発展的介入：居宅や施設を訪問して介入する人材の養成と効果の検証	2018～2022
基礎研究 (C)	リハビリテーション科	病院教授	城戸 顕	骨転移を有する長期生存がん患者・悪性骨腫瘍患者の身体活動量維持プログラムの開発	2018～2021
基礎研究 (C)	分子病理学	博士研究員	藤井 澄	がん性サルコペニアに対する特異的マーカーの確立とHMGB1 標的化による抑制	2018～2020
基礎研究 (C)	第二解剖学	准教授	辰巳 晃子	抑制性神経回路特異的なアストロサイトの同定とその機能解析	2019～2021
基礎研究 (C)	第二解剖学	助教	竹村 晶子	高脂肪食摂取による肥満と脳の炎症～マクロファージに着目して～	2019～2021
基礎研究 (C)	生体分子不均等制御学 共同研究講座	助教(共同研究講座)	Wiriyaermkul Pattama	Molecular mechanism of the pathogenic protein interaction at the C-terminus of amino acid transporter b0,+AT/SLC7A9 in Japanese-type cystinuria	2019～2021
基礎研究 (C)	病理診断学	助教	伊丹 弘恵	悪性中皮腫に発現するHEG1 の制御に関わるマイクロRNAの探索と分子機序の解明	2019～2021
基礎研究 (C)	第二解剖学	講師	田中 達英	痛覚鈍麻マウスを用いた順遺伝学的スクリーニングによる新たな疼痛制御因子の同定	2019～2021
基礎研究 (C)	脳神経内科学	講師	桐山 隆夫	ヒト脳オルガノイドを用いた神経変性疾患を引き起こすリポート病の病態解析	2019～2021
基礎研究 (C)	精神医学	学内講師	鳥塚 通弘	マクロファージとヒトiPSニューロン共培養系による統合失調症・ASD病態解析	2019～2021
基礎研究 (C)	精神医学	博士研究員	芳野 浩樹	社会的隔離モデルによる社会性の神経回路の同定 内側前頭前野—橋—小脳を中心に	2019～2021
基礎研究 (C)	未来基礎医学	特別研究員	小橋川 新子	遅発性活性酸素種抑制による正常細胞の防護	2019～2022
基礎研究 (C)	放射線医学	教授	吉川 公彦	下肢動脈カルシウムスコアとPAD治療予後に関する前向きコホート研究	2019～2022
基礎研究 (C)	放射線医学	博士研究員	正田 哲也	肝細胞癌TACEにおける多孔性ガラス膜新規乳花デバイスの製品化に向けた開発	2019～2022
基礎研究 (C)	小児科学	助教	石原 卓	凝固線溶バランスを基盤とした小児がん血栓症に対する新規テラーメイド治療の確立	2019～2022
基礎研究 (C)	呼吸器内科学	非常勤講師	熊本 牧子	肺線維症患者に対する間葉系幹細胞療法の臨床応用を目指した有効な新規マーカーの探索	2019～2022
基礎研究 (C)	皮膚科学	講師	宮川 史	SLEモデルマウスにおける炎症性単球の病態への関与の解明	2019～2021
基礎研究 (C)	教育開発センター	教育教授	若月 幸平	消化管虚血再還流障害による癌転移促進のメカニズムの解明と転移抑制治療への応用	2019～2021
基礎研究 (C)	消化器・総合外科学	博士研究員	石田 和寛	消化器癌進展におけるE3ユビキチンリガーゼ発現異常の役割解明	2019～2021
基礎研究 (C)	消化器・総合外科学	助教	北東 大督	T細胞不活化経路をターゲットとした腫瘍免疫療法と抗腫瘍薬を併用した新規治療の開発	2019～2021
基礎研究 (C)	消化器・総合外科学	講師	久下 博之	肛門病変検体を用いたT細胞不活化によるクローン病新規免疫療法探求	2019～2021
基礎研究 (C)	救急医学	助教	川井 廉之	敗血症における原因菌の迅速同定技術の開発	2019～2021
基礎研究 (C)	脳神経外科学	准教授	中川 一郎	メルトニン受容体を介したミトコンドリア膜電位制御のメカニズム	2019～2021
基礎研究 (C)	整形外科	教授	田中 康仁	間葉系幹細胞シートを用いた神経束移植における新規治療法の確立	2019～2022
基礎研究 (C)	産婦人科学	博士研究員	吉元 千陽	MRスペクトロスコピーを用いて子宮内膜症の悪性化を早期に予測する新規検査法の確立	2019～2021
基礎研究 (C)	産婦人科学	医員	常見 泰平	妊娠高血圧症候群の胎盤形成におけるインプリンティング遺伝子の関与	2019～2021
基礎研究 (C)	産婦人科学	助教	長安 実加	PIK3CA 遺伝子変異に対する合成致死候補の探索	2019～2021
基礎研究 (C)	産婦人科学	講師	成瀬 勝彦	Danger Signal抑制によるHDP 悪化遅延と新生児周産期予後の改善	2019～2021
基礎研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	医員	森本 千裕	ABRを用いた新しい軟骨伝導補聴器の装着効果評価法	2019～2021
基礎研究 (C)	めまいセンター	病院教授	山中 敏彰	下肢足圧の中心動揺と荷重量による定量的体平衡検査法の開発	2019～2021
基礎研究 (C)	眼科学	医員	吉川 匡宣	緑内障が生体リズムへ与える影響の検討	2019～2021
基礎研究 (C)	口腔外科学	教授	桐田 忠昭	DNA修復経路と細胞内物質輸送を標的とした口腔がん治療法の開発	2019～2022
基礎研究 (C)	産婦人科学	准教授	川口 龍二	帝王切開術における選択的・個別的な肺血栓症予防効果の検証と医療経済的評価	2019～2021
基礎研究 (C)	看護学科 成人急性期看護学	講師	佐竹 陽子	救急領域の終末期における緩和的創傷ケアの構築	2019～2021
基礎研究 (C)	看護学科 小児看護学	講師	山田 晃子	保護者と子どものかかりつけ医との対話を促進するためのモバイル手帳開発	2019～2022
基礎研究 (C)	保健体育	教育教授	石指 宏通	血栓形成関連因子の変動からみた運動強度閾値の季節・日内変動	2019～2021
基礎研究 (C)	整形外科	講師	小川 宏宏	早期軟骨病変に対する3次元軟骨定量評価法に関する研究	2019～2021
基礎研究 (C)	数学	教授	藤本 圭男	非同型な自己正則写像を持つコンパクト複素多様体の研究	2020～2022

Winner Report

研究種目	教室名 (R2.5.1)	職名 (R2.5.1)	氏名	研究課題名	研究期間
若手研究	脳神経内科学	医員	塩田 智	リピート異常に起因する神経筋疾患の病態解明	2019～2021
若手研究	脳神経内科学	医員	井口 直彦	Danon 病のヒト病態モデルを用いた解析	2019～2022
若手研究	精神医学	博士研究員	中西 葉子	注意欠如・多動症の heterogeneity に関する多面的検討	2019～2021
若手研究	精神医学	助教	北村 聡一郎	自閉スペクトラム症の PTSD 様症状の神経基盤に関する研究	2019～2021
若手研究	精神医学	助教	岡村 和哉	社会経験の剥奪による前頭前野の機能障害の起点となる神経細胞の解明	2019～2022
若手研究	放射線腫瘍医学	講師	三浦 幸子	陽子線の生物学的効果比と放射線肺臓炎の関係：機能画像、放射画像の応用による解明	2019～2021
若手研究	血栓止血分子病態学	助教(寄附講座)	古川 晶子	血友病 A 治療におけるインヒビター発生抑制を標的とした新規第 VIII 因子製剤の開発	2019～2022
若手研究	消化器内科学	学内講師	高谷 広章	血液凝固因子である VWF を用いた肝細胞癌新規治療法と新規バイオマーカーの開発	2019～2021
若手研究	消化器内科学	医員	才川 宗一郎	肝内胆管癌に対する NOTCH/YAP 経路のクロストーク制御を介する新規治療の開発	2019～2021
若手研究	消化器内科学	医員	関 建一郎	NASH 進展に対する FXR 作用薬を用いたカクテル療法の可能性	2019～2020
若手研究	呼吸器内科学	助教	藤田 幸男	呼吸波形解析を活用して COPD の呼吸困難を読み解く—新たな呼吸法開発を目指して—	2019～2021
若手研究	皮膚科学	助教	西村 友紀	薬剤性過敏症候群発症後にヒトヘルペスウイルス 6 の持続感染をきたした症例の検討	2019～2021
若手研究	輸血部	医員	酒井 和哉	新規 von Willebrand 因子阻害アプタマーの血栓形成阻害効果の多面的検討	2019～2020
若手研究	消化器・総合外科学	医員	洲尾 昌伍	小児固形癌における獲得免疫機構の統合的解析	2019～2020
若手研究	消化器・総合外科学	医員	吉川 高宏	ADAMTS13 関連因子を軸とした肝虚血再灌流障害に対する新規治療戦略	2019～2021
若手研究	腫瘍センター	医員	國重 智裕	ユビキチン修飾系を標的とした新規食道癌治療法の臨床導入を目的とした研究	2019～2020
若手研究	消化器・総合外科学	医員	松尾 泰子	CD200 をターゲットとした大腸癌肝転移に対する新規治療法の開発	2019～2020
若手研究	消化器・総合外科学	医員	中村 広太	膵癌における CD70 発現の意義の解明と新規治療の開発	2019～2020
若手研究	消化器・総合外科学	医員	岩佐 陽介	CD200 陽性大腸癌細胞の機能解析による新規大腸癌治療の開発	2019～2020
若手研究	中央手術部	助教	植村 景子	全身麻酔下の VEP モニタリングにおける振幅低下時の最適警告基準の検討	2019～2021
若手研究	麻酔科学	助教	寺田 雄紀	メンブレントラフィックに着目した新たな疼痛メカニズムの解明	2019～2022
若手研究	整形外科学	博士研究員	吉良 務	術後関節拘縮および癒着に対する合成吸収性癒着防止剤による新規予防法の開発	2019～2020
若手研究	口腔外科学	博士研究員	中嶋 千恵	口腔衛生が免疫チェックポイント阻害薬の奏功性に及ぼす影響	2019～2021
若手研究	看護部	技師	久保 慎一郎	NDB (レセプトデータ) を用いた難病患者の疫学調査の手法開発と治療実態の把握	2019～2022
若手研究	看護学科 基礎看護学	助教	櫻井 優祐	新人看護師死生観サポートプログラムの構築	2019～2021
若手研究	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	塩崎 智之	めまい平衡リハビリの客観的評価法の確立と効果的なリハビリプログラム開発への応用	2019～2021
若手研究	分子病理学	博士研究員	後藤 桂	悪液質におけるクレアチン・サイクル障害の検討	2019～2021
若手研究	放射線医学	医員	齊藤 夏彦	超音波加温時の音速変化率の測定による、癌治療効果の早期予測	2019～2020
若手研究	精神医学	助教	盛本 翼	メンタルヘルスリテラシーに関する教員教育方法の確立	2020～2021
若手研究	発生・再生医学	助教	長岡 創	転写因子 ZGLP1 によるマウス胎原生殖細胞の雌性運命決定機構の解明	2020～2022
若手研究	精神医学	助教	山室 和彦	幼少期社会経験が構築する前頭葉—視床室傍核回路の解明	2020～2022
若手研究	救急医学	医員	増田 佳亮	脊髄離断モデルラットに対する骨髄間葉系幹細胞シート移植における移植時期の検討	2020～2023
若手研究	脳神経内科学	助教	七浦 仁紀	筋萎縮性側索硬化症における液—液相分離制御シヤベロンの機能解析	2020～2021
若手研究	脳神経内科学	助教	江浦 信之	ヒト脳オルガノイドを用いた難治性中枢神経疾患の病態解明	2020～2022
若手研究	精神医学	助教	岡崎 康輔	成人期自閉スペクトラム症における性差と逆境的小児期体験の影響の検討	2020～2023
若手研究	精神医学	助教	小森 崇史	マイクログリア由来 BDNF が社会性に与える影響の解析	2020～2022
若手研究	放射線医学	医員	松本 武士	がん免疫逃避機構からみた肝動脈塞栓術後再発メカニズムの解明と、新規治療戦略の開発	2020～2022
若手研究	放射線医学	医員	南口 貴世介	レンパチニブ投与後の肝臓の血流動態変化の解析とレンパチニブ先行 TACE の機序解明	2020～2021
若手研究	総合画像診断センター	助教	佐藤 健司	進行肝細胞癌に対するレンパチニブ含浸ペースを用いた新規 IVR 治療の開発	2020～2021
若手研究	血栓止血薬薬理学共同研究講座	助教(共同研究講座)	坂田 飛鳥	グリコカリックス・赤血球による血栓制御に着目した溶血性尿毒症症候群治療法の創出	2020～2022
若手研究	集中治療部	助教	上田 友哉	ABPM および BIA を用いた、HFpEF の病態および治療開発にむけた研究	2020～2022
若手研究	感染症センター	医員	西村 知子	特発性肺線維症における線維芽細胞集形成のメカニズム解明：患者肺検体の解析から	2020～2022
若手研究	皮膚科学	特任助教	御守 里絵	分子標的治療薬による皮膚障害発症機序の解明	2020～2022
若手研究	感染症センター	医員	今北 菜津子	インフルエンザウイルス感染重症化におけるヒストン修飾酵素 SETDB2 の機能解明	2020～2022
若手研究	消化器・総合外科学	医員	定光 ともみ	骨髄幹細胞移植と血球除去療法併用による難治性潰瘍性大腸炎に対する新規治療法の開発	2020～2022
若手研究	消化器・総合外科学	医員	中出 裕士	Cullin4A を介した食道癌の進展機序の包括的解明と新規治療戦略の開発	2020～2022
若手研究	消化器・総合外科学	助教	中川 顕志	胆膵癌における CD200 発現の意義の解明と治療抵抗性を標的とした新規治療法の開発	2020～2021
若手研究	分子病理学	博士研究員	西口 由希子	HMG B1 標的化による胃癌におけるシスプラチン耐性阻害	2020～2021
若手研究	消化器・総合外科学	医員	宮尾 晋太郎	消化器癌進展における CBLC 発現の包括的解明	2020～2021
若手研究	胸部・心臓血管外科学	助教	福場 遼平	左心負荷モデルにおける新しい指標としての肺動脈キャパシタンスの有用性	2020～2021
若手研究	胸部・心臓血管外科学	助教	平賀 俊	人工赤血球投与による脊髄虚血改善に関する研究	2020～2023
若手研究	麻酔科学	学内講師	内藤 祐介	ヘモグロビン小胞体の AKI 予防効果についての検討	2020～2023
若手研究	分子病理学	助教	岸 真五	ミトコンドリア—小胞体関連タンパク PDZD8 を標的とする骨肉腫治療戦略	2020～2021
若手研究	泌尿器科学	助教	堀 俊太	日本人生体腎移植レシピエントにおける腸内細菌叢と移植免疫の関連解析	2020～2021
若手研究	産婦人科学	助教	市川 麻祐子	リゾリン脂質経路の絨毛細胞機能への役割と妊娠高血圧腎症の病理機序の解明	2020～2022
若手研究	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	医員	伊藤 妙子	メニエール病発症機序の解明。内リンパ水腫はメニエール病の原因か。	2020～2022
若手研究	眼科学	助教	辻中 大生	網膜色素上皮の色素産生能が加齢黄斑変性症に与える役割	2020～2022
若手研究	口腔外科学	医員	今田 光彦	ビスフォスフォネート関連顎骨壊死を予防する塩基性線維芽細胞増殖因子の作用機序解明	2020～2022
若手研究	看護学科 成人急性期看護学	助教	森脇 裕美	心血管系手術を受ける高齢患者の足の形態および機能の検証とフットケアの実態	2020～2022
若手研究	精神医学	非常勤講師	木納 潤一	統合失調症者に対する運動課題と認知課題の多重課題プログラム CAT の効果検証	2020～2023
若手研究	看護学科 公衆衛生看護学	助教	堀内 沙央里	奈良県内の地域住民とその環境におけるピロリ菌の蔓延実態ならびに感染源の包括的解明	2020～2022
若手研究	分子病理学	博士研究員	川原 勲	温熱療法併用による癌性筋萎縮促進物質の抑制	2020～2021
若手研究	整形外科学	助教	石田 由佳子	虚弱者に対する身体活動量を指標とした新しい筋電気刺激 EMS 併用リハビリテーション	2020～2022
若手研究	リハビリテーション科	講師	眞野 智生	脳卒中運動麻痺に対する運動負荷を基盤とした脳内メカニズム解析	2020～2022
研究活動スタート支援	脳神経内科学	医員	絹川 薫	ヒト大脳・中脳オルガノイドを用いた小児難治性てんかんの病態解明	2019～2020
研究活動スタート支援	未来基礎医学	特別研究員	中西 真理	プロリンの異性化制御異常による神経変性疾患発症機序の解明	2019～2020
特別研究員奨励費	循環器内科学	特別研究員 (PD)	熊澤 拓也	心不全における細胞老化誘導機構の解明と老化細胞を標的とした新規治療法の開発	2018～2020
特別研究員奨励費	病原体・感染防御医学	特別研究員 (DC1)	三須 政康	重症熱性血小板減少症候群ウイルスに対する感染阻止モノクローナル抗体の探索	2020～2022

喜びの声



基盤研究 (A)
「組織学と複合した単一細胞
DNA メチル化解析法による原始
卵胞淘汰過程の解明」

発生・再生医学 教授 栗本 一基

研究概要：本研究は、世代を越えた生命継承の要である生殖細胞系列の重要な未解明問題、品質管理機構の解明を目指します。卵母細胞は、卵胞を形成する周囲の支持細胞と密接に相互作用して、生涯に渡り激しい淘汰にさらされますが、その詳細は技術的な限界から不明でした。本研究では、本講座に導入したレーザーマイクロディセクションシステムによる遺伝子発現および DNA メチル化解析技術を改善し、単一細胞レベルで定量的な情報を得られるように高度化して、卵胞供給システムの形成・維持過程を、組織学的情報とともに解明することを目的とします。

応募への取り組み：レーザーマイクロディセクションシステムを用いた定量的な単一細胞遺伝子発現解析技術の開発はすでに別の研究助成を得て進めていました。本研究提案は、そこに DNA メチル化解析をマッチさせた技術を作ることが核心であり、内容に説得力を持たせるため、本学の科研費申請支援を受けて、ロバスト・ジャパンによる添削指導を受けました。構成、内容ともに非常にブラッシュアップされたと思います。ありがとうございました。



基盤研究 (A)
「疫学と臨床医学、情報工学の
融合によるデータベース医学の
標準的疾患定義の開発」

公衆衛生学 准教授 野田 龍也

日本には、世界最大級のヘルスケアデータがあります。全国の医療機関等が医療費の請求のために発行している診療等の報酬明細書(レセプト)がそれです。当教室は、今村知明教授を筆頭に、このデータを活用して「n=1 億人」の臨床研究を実現する大きなプロジェクトにとりこんでいます。

一方、レセプトを臨床研究へ応用するためには、多くの課題があります。検査のためにつける疑い病名はその代表例です。今回の科研費課題は、6年分・100 億件超の匿名レセプトを分析し、患者さんの真の病名を再構築する手法を開発することを目標としています。これに成功すれば、世界最大級の医療ビッグデータによる多くの分析を日本発、奈良医大発で出すことが期待されます。

文部科研の申請書では、新しい医学分野(データベース医学)を切り開くという熱い思いとともに、目的を実現するための環境を自分たちが有すること、期待される研究成果に届かなかった場合の対応などを率直に記載しました。基盤 ABC などの研究種目は必要経費によりますので、研究者としては、途切れなく 4 回目の文部科研採択につながったことのほうをありがたく感じております。今回採択は、研究推進課を始めとする大学事務のみなさまのご支援、教室事務の方々の尽力、周囲の教員・院生の助言あってこそです。本研究の推進には、学内の皆様、特に臨床の先生方のご協力が不可欠です。今後ともご指導のほど、なにとぞよろしくお願い申し上げます。



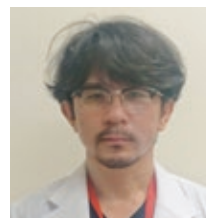
基盤研究 (B)
「生物学的相分離の制御機構」

未来基礎医学 准教授 森 英一郎

この度、「生物学的相分離の制御機構」という課題名で、科研費・基盤研究 (B) に申請していた内容が採択となりました。奈良医大に着任してからの 2 年半の研究活動がこのような形で一定の評価を受けたということで、大変喜ばしく感じております。

基盤 B への申請はその都度試行錯誤を凝らしてきましたが、3 度目の挑戦での採択となりました。申請に際して、これまでの審査評価で低くなっていた点に着目し、「実現可能性の改善」と「審査区分の変更」を特に意識しました。研究の実現可能性を示すために研究組織の体制を十分に検討し、分担者との共同研究の事前準備状況をより具体的に示すようにしました。学内で開催されていたセミナーを受講した際に教わった方法で審査結果を分析したところ、評価が高い審査員と低い審査員との 2 群に分かれる傾向がありました。これまでは医学系の「医化学」に申請していましたが、低く評価している審査員には研究内容自体があまり響いていない印象を受けました。その要因の一つが、研究分野が異なることに起因していると思われたので、思い切って審査区分の変更を行いました。今回の申請では、基礎生物学系で同様の研究内容の研究者が多くいると思われた「構造生物学」を選択しました。

今回の採択課題を基盤として、さらに研究を前に推し進めて参ります。



基盤研究 (B)
「小児期栄養環境が形づくる
髄鞘構造とその精神症状への
効果の検討」

精神医学 准教授 牧之段 学

これまで髄鞘形成を誘導する分子を追及してきましたが、筋トレの最中にふと「筋肉をつけるにはプロテイン、髄鞘を作るには！」と閃きまして、健全な髄鞘を形づくるには髄鞘成分の約 80 % を占める脂質の摂取が大切なのではないかと考え、このたび採択されました基盤研究 B「小児期栄養環境が形づくる髄鞘構造とその精神症状への効果の検討」の構想を練り始めました。髄鞘構造を規定する脂肪酸のスクリーニングには多くの分子機能の効率的検証が可能な in vitro 実験系の構築が不可欠でありましたが、奈良医大と奈良先端大の交流会に、試験管内での蛋白構造分析を得意とされる末次志郎教授がいらっしゃることを知り、参加させて頂いて研究内容を説明したところ、大変ご興味をもって頂けました。また、食べ物などから摂取された脂肪酸が髄鞘まで運ばれる経路には異なる細胞種を介した複数の経路が存在しますが、従来の脳組織全体を調べる手法では各経路の解明が不可能であったため、1 細胞解析を得意とする本学の栗本一基教授にも構想を説明したところ、なんと末次先生と栗本先生は大学の同期とのことで話が済み、本研究費の採択に至りました。末次先生と栗本先生、そして奈良医大と奈良先端大の交流事業に感謝申し上げます。

Winner Report



基盤研究 (B)
「糖尿病高齢者に特化した
テーラーメイド型フレイル
発症・進展予防ケアモデルの確立」

基礎看護学 講師 西村 亜希子

このたび、「糖尿病高齢者に特化したテーラーメイド型フレイル発症・進展予防ケアモデルの確立」を研究テーマとして、2020年度科学研究費助成事業基盤研究(B)に採択していただきました。この研究は、一般高齢者よりもフレイルになりやすい糖尿病高齢者を対象として、身体面、生活面の特徴や変化から従来よりも早期にハイリスク者を抽出し、糖尿病治療と両立可能なフレイル予防を行うケアモデルの確立を目指すものです。

応募の際には、本学の科研費応募申請説明会に参加し、最新の動向や新様式での申請書作成のポイントを参考にさせていただきました。また、今回の応募に至るまでには、信憑性の高いエビデンスの構築を目指して予備調査からステップを積み重ね、フィールドを開拓し、全国の共同・連携研究者と協働して徐々に研究を拡大してきました。特に、「エビデンスに基づくケア」の提案という点では、看護研究者、高度実践看護師を中心とした多職種チームを構成し、看護の視点でエビデンスを創出することを目指してきました。このような取り組みとこれまでの研究成果を基盤にした研究計画が、今回、科研費に採択いただけましたことは大変励みになりました。これを機に、より一層精進してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。



基盤研究 (C)
「トーリック多様体と凸多面体の
双方向にわたる応用研究」

数学 助教 川口 良

昨年度まで助成を受けていた若手研究(B)に続き、今年度は基盤研究(C)で採択されました。

科研費は個人への助成であると同時に、所属組織の運営にも少なからず影響を与える性質のものであります。臨床系や実験系に比べれば額も小さく、対外的なインパクトや間接経費の獲得という点での寄与は低いですが、医科大学であっても医療系に限らず様々な分野で専門的な研究を行っているのだという姿勢を発信できることで、そういう面でも多少は貢献できたのかなと考えております。

私の専門は代数幾何学で、中でも特に、代数学上の諸問題を多面体の形や体積、格子点の数といった情報に関連付けて研究をする分野です。代数幾何学の主流からは少し外れていることもあり、申請にあたっては本流との関係や自分以外でもそれを対象としている人が多い点などを強調し、何が未知の問題でそれをどこまで解明できるのかをできるだけ簡潔かつ平易な表現でまとめました。特に何をどこまで解明するかについては次回申請の際の評価にもつながるため、成算のある研究を慎重に選んで書きました。そういう意味では、申請書の内容は目標から研究背景へと遡って考えるのがよいかもしれませんが、そのためには日頃から手持ちのカード(=研究)を多くしておかなければなりません。

既知のことをただ教えるのではなく、常に新しい研究成果を発信し続けるのが大学の使命の一つであると思うので、これからも怠らぬに努力していきたいと考えています。



若手研究
「Cullin4A を介した食道癌の
進展機序の包括的解明と
新規治療戦略の開発」

消化器・総合外科学 医員 中出 裕士

この度、科学研究費助成事業の若手研究で採択いただきました。

甚だ僥越ではございますが、応募書類作成時に意識したことを中心に記させていただきたいと思っております。まず応募書類作成時に意識したことは、申請書類は可能な限り埋めて空白を作らないということです。審査委員のご経験のある先生は、一人で膨大な量の応募書類を審査するため空白があると熱意がないとみなされ読んでもらうことすらかなわないのではないかとおっしゃられていました。科研費獲得の大前提として応募書類にはできる限り空白は作らないということが重要であると思っております。また研究内容を伝えるためには文章が読みやすく整理されていることも大切かと考えます。課題により専門的になるのは当然ではありますが、専門分野の異なる審査委員の先生方が読まれても、ある程度ご理解いただけるような構成を心掛けて作成いたしました。図表を用いて視覚的に訴えるのも効果的かと考えます。大学主催の科研費取得に向けてのセミナーや講演会への参加、応募書類の添削事業を受講できたことも採択の大きな要因と思っております。具体的に何をどのように書けばよいかを示され、非常に参考になりました。

今後は今回の採択を機に研究活動をますます発展させていければと考えております。

以上とりとめの文章になりましたが皆様のご参考になれば幸いです。



若手研究
「奈良県内の地域住民とその環境
におけるピロリ菌の蔓延実態
ならびに感染源の包括的解明」

公衆衛生看護学 助教 堀内 沙央里

看護学科で教員をさせていただきながら、同大学の微生物感染症学教室で大学院生として研究をさせていただいております。今回は、前年度までのテーマを継続しての申請でしたが、特に「研究課題の核心をなす学術的問い」を明確に書くことに苦勞しました。これまでの研究結果を受けて今回の学術的問いが明確であるか、文章に一貫性があるか、そして誰が読んでも理解し易い文章であるか等を意識して調書を作成し、作成後には何度も微生物感染症学教室の指導教官である矢野教授、中野准教授をはじめとする先生方や学科の上司である城島教授に指導や助言をいただき、文章の推敲につなげました。

研究テーマは「奈良県内の地域住民とその環境におけるピロリ菌の蔓延実態ならびに感染源の包括的解明」であります。研究の実施にあたっては県内の市町村および医療機関から厚意のご協力を得ることができ、さらに行き詰った際には微生物感染症学教室や看護学科の先生方からの確かな指導や助言をいただきながら、とても恵まれた環境の中で研究を実施することができており、感謝しております。未だ特定されていないピロリ菌の感染経路を包括的に解明し、感染予防策の確立、さらには県内の胃がん罹患患者数の減少に貢献できるよう研究を進めて行きたいと思っております。

寄附者ご芳名

「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました

基金創設以来、令和2年6月までに累計2,943件のご寄附をいただいております。

なお、今号では、令和2年4月～令和2年6月にお申し込みいただいた方のご芳名を掲載させていただきます。

【個人】

◆30万円以上100万円未満

乾 修 様 大嶋 浩 様 佐野 貞彦 様
林 洋 様 前田 昌己 様 三橋 二良 様
吉川 貞親 様

掲載を希望されないご寄附者様 2名

◆10万円以上30万円未満

上田 章雄 様 小川 純市 様 久下 博之 様
寺井 太一 様 中田 荷葉 様 中谷 勝紀 様
細川 洋治 様 宮尾 孝治 様 森本 浩一 様

掲載を希望されないご寄附者様 2名

◆10万円未満

清水 澄子 様 清水 洋一 様

掲載を希望されないご寄附者様 4名

◆金額の公表を希望されないご寄附者様

熨斗 秀興 様

【法人・企業】

◆100万円以上

一般財団法人 弘済会 様

(五十音順)

ご寄附いただいた方のご芳名については、本学「未来への飛躍」基金HP (<http://www.naramed-u.ac.jp/~hiyakukikin/>) に掲載しております。

インフォメーション

Information

大学院入試日程

2020年度 秋入学 大学院医学研究科（博士課程）

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
医科学	若干名	2020年7月13日(月)～7月17日(金)	2020年8月3日(月)	2020年9月8日(火)

●社会人※の入学も可能です。●社会人には、長期履修制度を設けています。

2021年度 大学院医学研究科（博士課程）

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
医科学	40	第一次募集 2020年10月12日(月)～10月16日(金)	第一次募集 2020年11月2日(月)	第一次募集 2020年12月8日(火)
		第二次募集 2021年1月4日(月)～1月8日(金)	第二次募集 2021年1月25日(月)	第二次募集 2021年3月9日(火)

●社会人※の入学も可能です。●社会人には、長期履修制度を設けています。●一次募集の結果によって、二次募集を実施しない場合があります。

●2021年度秋入学の実施については未定です。●大学院修学資金貸与制度（要件を満たした場合返還免除）があります。

2021年度 大学院医学研究科（修士課程）

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
医科学	5	第一次募集 2020年10月5日(月)～10月9日(金)	第一次募集 2020年11月2日(月)	第一次募集 2020年12月8日(火)
		第二次募集 2021年1月4日(月)～1月8日(金)	第二次募集 2021年1月25日(月)	第二次募集 2021年3月9日(火)

●社会人※の入学も可能です。但し、2021年3月31日までに概ね1年以上の実務経験を有することが必要です。●一次募集の結果によって、二次募集を実施しない場合があります。

2021年度 大学院看護学研究科（修士課程）

専攻	コース	専門	募集人員
看護学	看護学コース	【領域】 健康科学 基礎看護学 看護実践応用学 がん看護学 高齢者看護学	小児看護学 精神看護学 公衆衛生看護学 在宅看護学 女性健康・助産学
		高度実践看護師教育課程（クリティカルケア看護分野、がん看護分野） 周麻酔期看護師教育課程	
	助産学実践コース	【領域】 女性健康・助産学	5

出願期間	試験日	合格者発表
第一次募集 2020年7月20日(月)～7月27日(月)	第一次募集 2020年8月24日(月)	第一次募集 2020年9月8日(火)
第二次募集 2020年10月20日(火)～10月23日(金)	第二次募集 2020年12月1日(火)	第二次募集 2020年12月8日(火)

●社会人※の入学も可能です。但し、2021年3月31日までに概ね1年以上の実務経験を有することが必要です。●社会人には、長期履修制度を設けています。

●本学学部からの進学者、奈良県内に住所を有し要件を満たす者については入学金が免除される入学金免除制度があります。

●高度実践コース(クリティカルケア看護分野、がん看護分野)及び助産学実践コースについては、修業中は学業に専念できる者とします。●一次募集の結果によって、二次募集を実施しない場合があります。

※社会人とは医療・保健・福祉施設、教育・研究機関、企業、官公庁等に勤務し、入学後もその職を有する者です。

Media Listing Information

メディア掲載情報をお寄せください～学報紙面で紹介します～

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生をこの「学報」紙面で紹介します。

日付	媒体	対象者	掲載概要
2020年			
4月14日	NHK 奈良 おはよう日本	口腔外科学	教授 桐田 忠昭 口腔がんの診断と治療について
4月16日	NHK 奈良 ならナビ		
4月17日	NHK 奈良 ニュースほっと関西		
4月19日	読売新聞	総合医療学	教授 西尾 健治 病院の実力「災害拠点病院」
4月26日	読売新聞	病院経営部	部長 川田 靖之 感染専用病床増設
4月28日	NHK 奈良 ならナビ		附属病院長 吉川 公彦 新型コロナウイルス感染症に対する本学の取り組みについて
4月29日	奈良新聞		名誉教授 吉岡 章 春の叙勲で瑞宝中綬章を受章
5月2日	日経新聞		MBT感染症外来ユニット実用化へ
5月11日	奈良テレビ 「ゆうドキッ！奈良人十色」	化学	教授 酒井 宏水 人工赤血球で血液不足を解決できるかも？
5月15日	読売テレビ かんさい情報ネットten		
5月15日	朝日テレビ キャスト		
5月15日	yahooニュース他27件		
5月16日	奈良新聞		
5月17日	毎日新聞	微生物感染症 感染症センター	教授 矢野 寿一 センター長 笠原 敬 世界初！オゾンによる新型コロナウイルス不活化を確認
5月17日	奈良テレビ ニュースほっと関西		
5月24日	読売新聞		
6月5日	朝日新聞		
6月9日	日本経済新聞		
6月10日	TBSテレビ グッドラック		
6月9日	読売新聞		MBT 感染症外来ユニット実用化へ
6月10日	県民だより7月号	感染症センター	センター長 笠原 敬 新型コロナウイルス感染症 拡大防止 最前線レポート
6月11日	毎日新聞	感染症センター	センター長 笠原 敬 新型コロナウイルス対応について
6月11日	日本経済新聞	疫学・予防医学	教授 佐伯 圭吾 特任准教授 大林 賢史 睡眠に優しい照明開発
6月19日	m3	麻酔科学	教授 川口 昌彦 闘病患者がパジャマとメイクで大変身する 写真展を開催
7月3日	m3		理事長・学長 細井 裕司 COVID-19対策でも注目！ 医学をまちづくりに生かすMBT構想
7月10日			
7月8日	日本経済新聞	中央手術部	名誉教授 古家 仁 講師 恵川 淳二 国内初、生体波形連携スマホナースコール [Safety-Net MBT] を開発
7月9日	読売新聞		看護学科卒業生 牧田 亜実 看護学科4年生を対象に国際看護の講義
7月11日	毎日新聞	呼吸器内科学 感染症センター	教授 室 繁郎 センター長 笠原 敬 スマホアプリでコロナ感染症患者の見守り、 臨床試験開始
7月14日	週刊朝日	皮膚科	教授 浅田 秀夫 名医が教える日本人の病気の最新治療 带状疱疹
7月21日			
7月18日	読売新聞	呼吸器内科学	講師 本津 茂人 病院の実力「肺がん」
7月26日	NHK 総合 NHKスペシャル		新型コロナウイルスに対する本学の取り組み の一部を紹介
7月28日	NHK 総合 プロフェッショナル 仕事の流儀	感染症センター	センター長 笠原 敬 新型コロナウイルスとの闘い 最前線で立ち向かう人たちの記録

編集後記

学報 73号も皆様からのご協力をいただき発行することができました。ご協力・ご支援いただいた皆様に深く感謝いたします。今号では、新型コロナウイルス感染症に対する、教育・研究・診療のそれぞれの分野での取り組みを紹介させていただきました。新型コロナウイルス感染症の状況は、日々刻々と変化を見せ、予断を許さない状況にあります。引き続き皆様のご理解・ご協力を賜りますようお願いいたします。

